令和２年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

「地域魅力化型」

研究実施報告書

第２年次

岩手県立大槌高等学校

巻　頭　言

岩手県立大槌高等学校
校長　瀬　戸　和　彦

東日本大震災の発生から 10 年の時が過ぎました。当時、避難所として多くの人が身を寄せた本校の校舎も、昨年度からの２年に及ぶ大規模改修によりすっかり真新しくなり、震災からの時間の経過を感じさせます。また震災の記憶の風化が心配されるなか、復興研究会をはじめとする生徒の防災や伝承に関する取組はこうした懸念を払拭させ、地域の未来を担う若者の成長を実感させます。これも被災地の高校に課された役割の一つといえます。

さて、地域との協働による高校教育改革事業も２年目が終了しました。本校では高校魅力化事業と並行して本事業を進めており、２つの事業を一体のものとして取り組んでいます。１年目は復興人材育成のために設定した「三陸みらい探究」を企画・運営しながら、魅力化の柱となるスクールミッション「大槌高校魅力化構想骨子」の策定に力を注ぎました。２年目となる本年度は、より主体的な探究活動を実施すべく三陸みらい探究のブラッシュアップを図りました。特に２年生による「マイプロジェクト」活動では、地域の方々の協力を得ながら生徒を支援し活動の充実を目指しました。また、三陸みらい探究を含む新しい学校設定教科の設置に向けた検討を行いました。事業の計画当初は学校設定科目として三陸みらい探究５単位のみでしたが、１年目に更なるカリキュラム検討の必要性を感じ、普通教科５科目と三陸みらい探究を包括的に連携させ、探究的な学びを実践する学校設定教科「地域みらい学」を構築しました。この地域みらい学は三陸みらい探究の他に、「ひょっこり表現島」「まちづくり探究」「くらし math」「おおつちラボ」「E パスポート」の学校設定科目６科目で構成され、地域課題と関連させながら教科横断的な授業展開を想定しています。令和３年度はこの地域みらい学の円滑な実施が取り組みの中心となります。

今年度はコロナ禍での事業展開となり活動が制約されたこともありましたが、逆に ICT を活用しこれまでとは違う新しい活動を実施することが出来ました。特に、オンラインの普及がめざましく、教員の会議や研究会だけでなく、生徒の探究活動やディスカッションなどもオンラインで実施する機会が多くありました。遠方の学校との交流が可能となり、山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校の両小国高校と本校の３校間探究活動が行われたり、今年度の成果発表会と地域連携研究協議会もオンライン上で開催し全国から多くの方に参加していただくことがきました。ICT やオンラインの普及は本校のような地方の小規模校にとって、これまでは実施が難しいことであっても、容易に可能にしてしまう非常に効果的なツールとなりました。

この２年間は本校教職員、魅力化推進員をはじめ、地域の方々の協力により事業をほぼ計画通り進めることが出来ました。しかも取組による生徒の変容は明らかで、今後の取組にますます期待が膨らみます。本年度の本校の活動にご支援・ご協力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げます。

目　次

巻頭言・・・

Ⅰ　研究開発実施報告（概要）

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト（大槌高校魅力化構想）

事業背景	①高校が存置する大槌町は、東日本大震災津波によって壊滅的な被害を受け、**復興を担うリーダーの育成が急務(震災復興)**	②県内最大の人口減少率であり、地域貢献意欲が高い、地域を支える人材の育成が急務である(**地域を支えるリーダーの育成**)
魅力化コンセプト	大海を航る、大槌(ハンマー)を持とう	

目指す人物像		
自立	**意志がある** 課題をジブンゴトにし、主体的に探究・行動が出来る人	
協働	**仲間とともにある** 他の価値観や文化等の多様性を受容し違いを越えて共創できる人	
創造	**逆境から創りだす** 予測できない未来や想定外など逆境においても新しい価値を創りだす人	

（町設置）大槌高校魅力化構想会議

→ 魅力化推進員派遣（NPO法人カタリバと連携）
カリキュラム開発専門家１名
地域協働学習支援員２名

コンソーシアム（管理機関：岩手県教育委員会）

- 町行政
- 商工会
- 大槌高校
- 認定NPOカタリバ
- 東京大学海洋研究所
- 町教委
- 高校PTA
- 町立学校
- おらが大槌夢広場

[校内体制]教員全員が所属するワーキンググループを設置。コンソーシアムと連動して魅力化を推進

令和元年度

①コンソーシアムの設置

・コンソーシアムが主導となりビジョンを策定
・コンソーシアムの各機関との具体的な連携

②学校設定科目「三陸みらい探究」の設定

・行政と連携した「SIMおつち2030」や「三陸復興ラーニングジャーニー」等の三陸みらい探究の初学年カリキュラムの設計

令和２年度

①「三陸みらい探究」２年生実施
・２年目となった三陸みらい探究では課題解決型PBL「マイプロジェクト」をコンソーシアム構成団体と協働し実施

②「三陸みらい探究」評価設計・運用
・学校設定科目の評価ルーブリックの設計、運用を全職員が連携して実施。

③学校設定教科「地域みらい学」設計（計 17単位）
・総合的な探究の時間「三陸みらい探究」に加えて５科目それぞれで学校設定の探究科目を開設。
※地域みらい学を学校設定教科として立ち上げ

総合的な探究の時間「三陸みらい探究」（5単位）

国語	公民	英語	数学	理科
ひょっこり表現島（2単位）	まちづくり探究（2単位）	Eパスポート（3単位）	くらしmath（2単位）	おおつちラボ（3単位）

次年度に向けて

①学校設定教科の実施
探究教科「地域みらい学」の円滑な実施。
教科と探究の連携、教科横断性の設計等
校内で研修会などを行いながら実施

②学校設定科目「三陸みらい探究」の完成
・ルーブリック評価の持続可能な運用
令和２年度行ったルーブリック評価は一定の成果があがったものの継続的運用に課題が残る。
教員が変わっても継続する仕組みづくりを行う

・継続可能な体制づくり
事業終了後も継続できるコンソーシアムの体制の検討（CS化の検討）や校内の研修や体制の検討

令和３年３月 30 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　岩手県盛岡市内丸 10 番１号
管理機関名　岩手県教育委員会
代表者名　　佐　藤　　博

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和２年４月 20 日（契約締結日）～令和３年３月 31 日

２　指定校名・類型

学校名　　岩手県立大槌高等学校

学校長名　瀬戸和彦

類型　　地域魅力化型

３　研究開発名

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト（大槌高校魅力化構想）

４　研究開発概要

（１）人材育成のためのカリキュラム検討

教育課程全体を再検討し、地域のリーダーを育成するためのカリキュラムの構築。

（２）学校設定科目「三陸みらい探究」のブラッシュアップ

１年目の内容を見直しながら、より主体的な探究活動の推進。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設している

・教育課程の特例の活用　　活用している

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
牧　野　　篤	東京大学教育学部 教授	
廣　田　純　一	岩手大学農学部 名誉教授	
田　中　　潔	東京大学国際沿岸海洋研究センター 准教授	
伊　藤　正　治	前大槌町教育委員会教育長	

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

通番	機関名	機関の代表者
1	岩手県教育委員会（管理機関）	佐　藤　　博
2	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	青　山　　潤
3	大槌町教育委員会	沼　田　義　孝
4	認定 NPO 法人カタリバ	今　村　久　美
5	大槌町	平　野　公　三
6	大槌町商工会	菊　池　良　一
7	大槌町立学校長会	松　橋　文　明
8	大槌町議会	小　松　則　明
9	大槌高校ＰＴＡ	東　梅　康　悦

8　カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	菅　野　祐　太	NPO 法人カタリバ	常勤
地域協働学習実施支援員	三　浦　奈々美	NPO 法人カタリバ	常勤
地域協働学習実施支援員	起　塚　拓　志	NPO 法人カタリバ	常勤

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1名特別加配		運営指導委員会	魅力化＆コンソ会議	教育課程審査・助言	教育課程審査・助言		学校視察・助言	魅力化構想会議		運営指導委員会	魅力化＆コンソ会議

（2）実績の説明

ア　コンソーシアムに係る実績

本事項ではコンソーシアムの取り組みと大槌高校魅力化構想会議の取り組みは相互に関連しており、大槌高校魅力化構想会議の取り組みについても列記する。

活動日程	活動内容
令和２年６月 12 日	令和２年度第１回運営指導委員会
7 月 13 日	第６回魅力化構想会議兼第１回コンソーシアム会議（書面決議） ・令和元年度事業報告並びに令和２年度事業計画を協議、承認。

12 月 22 日	第７回魅力化構想会議 ・来年度の事業方針、関係機関との調整・要望を協議、承認。
令和３年２月 15 日	第２回運営指導委員会 ・今年度の事業に対する助言
３月 26 日	第８回魅力化構想会議兼第２回コンソーシアム会議 ・令和２年度事業報告並びに令和３年度事業計画を協議

イ　カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

（ア）指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

認定 NPO 法人カタリバ 菅野祐太氏（町から NPO への業務委託）　週５日常駐

（イ）活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
毎月１回	・大槌高等学校の職員会議等に出席 ・魅力化の取り組みの進捗や運営指導委員会やコンソーシアム等開催された会議の内容を共有
不定期	・コンソーシアムと魅力化に関する会議の企画運営 ・教育課程検討会議に参加 ・町立学校コミュニティースクール等の会議に参加

ウ　地域協働学習実施支援員について

（ア）指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

認定 NPO 法人カタリバ 起塚拓志氏（町から NPO への業務委託）　週５日常駐

認定 NPO 法人カタリバ 三浦奈々美氏（町から NPO への業務委託）　週５日常駐

（イ）実施日程・実施内容

地域協働学習実施支援員の活動実績について、具体的に記入すること。

日程	内容
毎月１回	・大槌高等学校の職員会議等に出席 ・魅力化の取り組みについての共有
毎週１回	・１・２年生の総合探究の企画・運営 ・学年団教員との打ち合わせし、次回の授業の方針を決定
令和２年７月１日	マイプロブラッシュアップデイ ・生徒の探究活動に助言できる地域の方々を招いてアドバイスをもらった。オンラインを含め 20 名参加
令和２年７月５日	「大槌発みらい塾！」の企画運営 ・地域の方々による１・２学年向け職業講話
９月～	・ＩＣＴ機器の活用・管理 ・およびオンライン探究連携の企画運営
年２回	・地域協働事業の評価および集計・分析

年継続	・探究のルーブリック評価の構築
随時	活動の発表および紹介 ・地域の中学校を訪問し中学生に高校を紹介 ・来校者に探究活動について説明・紹介

エ　運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和２年６月 12 日	令和２年度第１回運営指導委員会 ・今年度事業計画と令和３年度に向けた教育課程編成について指導助言を受けた。
令和３年２月 15 日	第２回運営指導委員会 ・探究発表会と併せて開催

オ　管理機関における取組について

（ア）管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

・大槌町からカリキュラム開発等専門家１名、地域協働学習実施支援員２名の配置

・管理機関による、継続的な取組を行うための教職員の特別加配１名

（イ）事業終了後の自走を見据えた取組について

本事業により開発した研究内容について、事業終了後も充実発展させていくとともに、管理機関により、所管する高等学校へ広く周知していく。

また、学校設定教科及び学校設定科目の実施について、適切な教育課程となるよう指導助言を行う。

大槌町では、大槌町教育大綱（平成 30 年３月公示）、大槌町第９次総合計画（令和元年３月公示）、大槌町子供の学び基本条例（令和元年３月公示）において「地域を舞台とした魅力的な高校教育の実現」を示しており、上述の通り高校魅力化推進員を３名配置した。

また、令和元年 11 月には、大槌高校魅力化構想骨子（第１期大槌高校教育振興計画）を示して令和 11 年度までの教育計画を策定し、町と高校、地域が拠って立つべき指針を明確にしているため、事業終了後も積極的に本取り組みを行っていく。

（ウ）高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

大槌町と大槌高校は「震災伝承推進活動に関する協定」を交わし、町の文化交流施設で本校の特徴的な取り組みである復興研究会の常設展示を行っている。

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

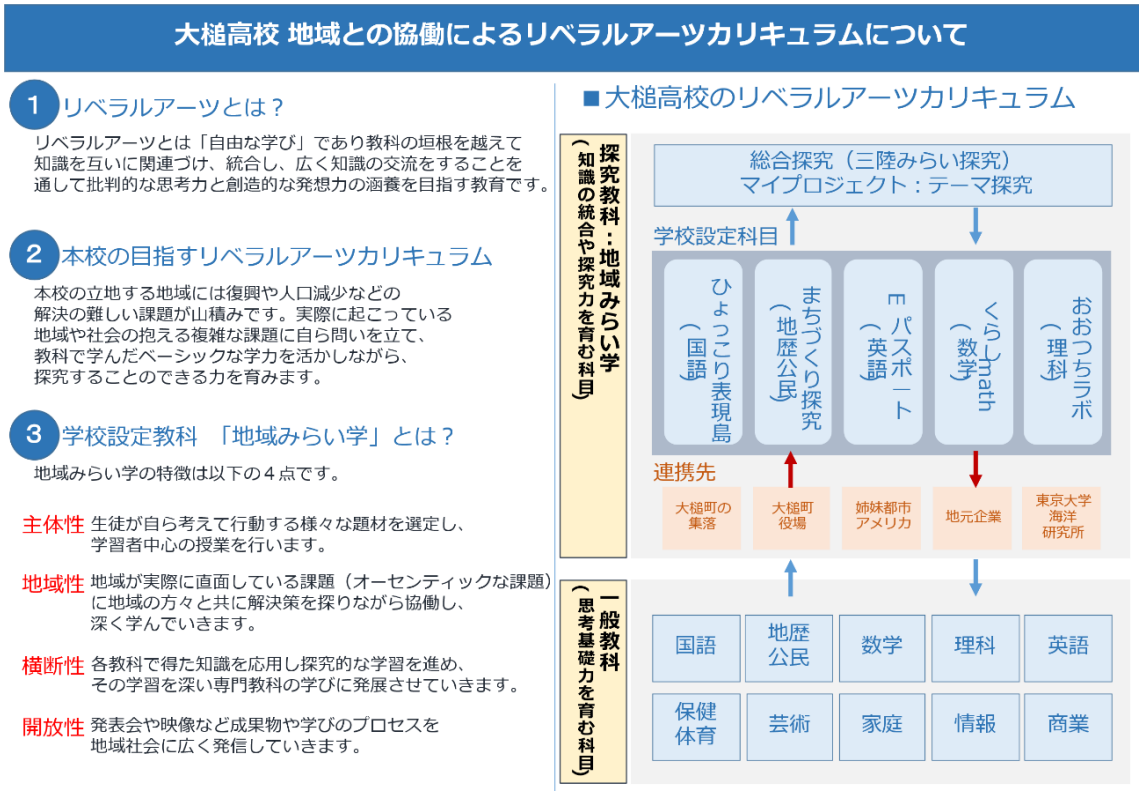
実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	通年実施											
三陸みらい探究（１年生）	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	自分プレゼン		大槌発みらい塾	SIM おおつち			ﾗｰﾆﾝｸﾞｼﾞｬｰﾆｰ			探究発表会	
三陸みらい探究（２年生）	マイプロジェクト			大槌発みらい塾			マイプロジェクト				探究発表会	

（２）　実績の説明

ア　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

（ア）人材育成のためのカリキュラム検討

ワーキンググループを立ち上げ教育課程を検討し、資質能力をはぐくみ地域の復興リーダーを育成するためのカリキュラムを編成し令和３年度から実施する。



（イ）学校設定科目「三陸みらい探究」による資質能力の育成

三陸みらい探究では、２学年において各生徒がテーマを設定して行うプロジェクト学習を実施した。１学年ではその準備段階として、自己理解活動や大槌町の行政課題を知る活動、課題解決の事例視察や体験活動等の機会を設定した。

［１年生の活動］

時　期	内　容	各単元のねらい（連続性）
５月～６月	**自分紹介プレゼンテーション** 探究を進めていくために必要な課題設定力を育むために、自己発見・自己理解を通して自分なりの視点を獲得した。自分を紹介するプレゼンテーションを作成し、町内の中学生に発表した。	**［自分を内省し表現する］**相手に伝わるよう表現することを通じて自己を内省する。
７月	**大槌発みらい塾！** 町内外の多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、自分の将来を考える材料とする。町内外で働く大人（大学生２名含む）を 10 名招き、歩んできた進路や仕事のやりがいについて小グループごとにヒアリングを実施した。	**［生き方を知る］**他者の生き方や進路をみつめることを通し、地域や社会へどう関わりたいかを考える。
８月～９月	**１週間マイプロジェクト** 自分が普段気になっていることから、１週間の間に行うことのできるプロジェクトを各自で設定し、プロジェクトによって解決できたことを振り返った。	**［課題解決の枠組みを知る］** 身近なテーマで小さなプロジェクトを実践し、課題解決の作法を知る。
10 月～11 月	**SIMulation おおつち 2030** 町行政の事業全体を学ぶことを通して、町の課題について理解を深めることと同時に、理想とする町の姿について考えた。 町の総合計画で掲げられた事業をグループごとに調べ、将来の大槌町で残していきたい事業の優先順位を考えた。	**［地域課題を知る］**町の行政課題を知り、幅広い領域から考える視野をもつ。
12 月	**三陸復興ラーニングジャーニー（SIMulation おおつち町外視察）** 大槌町と同様の課題を抱える三陸沿岸の市町村のまちづくりを支える事業者への視察や体験を通して、大槌町における課題の解決策を考えた。三陸沿岸で地域の課題に向き合い活動している取り組みの視察や、体験をグループに分かれて行った。	**［他地域の課題解決策を知る］** 地域課題解決のモデルケースにふれ、自地域での課題解決を考える。
２月	**大槌町の未来像を考える（SIMulation おおつち最終発表）** 理想とする大槌町を実現するための提案することを通して、地域社会の課題解決に向けた具体的な方策を考える力を高める。	**［自地域における課題解決の方策を知る］**

	大槌町の理想像と、その実現に向けた提案を各グループでポスターにまとめて発表する。	理想の実現に向けた方策を考える。

［２年生の活動］

時　期	内　容	各単元のねらい（連続性）
５月～７月	**マイプロジェクト①テーマ設定** 短期間でのプロジェクト活動や大人への相談活動を通して、個々人の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定した。 **・ちょこっとマイプロジェクト** 個人で身近な題材から問いを設定し、１週間で調査を行い得られた成果を報告した。 **・マイプロジェクト・ブラッシュアップデイ** 生徒が考案したテーマについて、エキスパートの大人からアドバイスやプロジェクトのアイデアをもらう相談会を開催した。	**［マイプロジェクト探究に向けた課題を設定する］** 個人の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定する。
７月	**大槌発みらい塾！** 町内外の多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、自分の将来を考える材料とした。町内外で働く大人（大学生２名含む）を１０名招き、歩んできた進路や仕事のやりがいについて小グループごとにヒアリングを実施した。	**［仕事と探究を接続する］** 地域課題解決のモデルケースにふれ、自地域での課題解決を考える。
10 月～2 月	**マイプロジェクト②課題解決アクション実践** 課題解決に向けたアクションを行いながら設定した問いを探究することで、課題解決を行う資質能力を総合的に育成した。定期的に成果報告の機会を設け、考えを相手へ伝える力を高めた。 **・ゼミ活動** 個人またはグループでテーマ設定を行い、課題設定から解決策実施までの流れを繰り返し実施した。テーマに応じてゼミに分かれ、教員が分担して生徒の活動を支援した。 **・中間発表会（10 月）** **・オンライン探究連携（10 月・12 月）** 山形県・熊本県の小規模校とオンライン接続し、実施しているプロジェクト活動について相互発表を行う交流活動を実施。 **・最終発表会（2 月）** １年間の活動の成果や学びを総括し、プレゼンテーション形式の発表会を校内で実施した。また、全国の高校生・教育関係者を対象としたオンライン発表会を実施し、代表プロジェクトが活動成果を発表した。	**［アクションを通して課題解決を学ぶ］** ・課題解決を行う資質能力を総合的に育成する。

イ　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間，学校設定教科・科目等）

令和元年度から学校設定教科「地域みらい学」を設定し、その中に総合的な探究の時間の代替として学校設定科目「三陸みらい探究（５単位）」を設置している。令和３年度からは学校設定科目「ひょっこり表現島」「まちづくり探究」「くらしｍａｔｈ」「おおつちラボ」「Ｅパスポート」の５科目を追加開設する。地域や社会の抱える複雑な課題に自ら問いを立て、教科で学んだ基礎学力を活かしながら、探究することのできる力を育む。

ウ　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

・３年生の理科の授業で地域に関わる課題をテーマにして物理、化学、生物、地学の視点から解決方法を模索、検討、発表した。
・地歴公民科で防災を取り上げ、実際の災害に対してどのように対応するのか、歴史的な視点、地理的視点、公民的視点から考える授業を行った。
・令和３年度から始まる新しい学校設定科目を想定して各科目が地域課題探究の研究授業を行った。

エ　類型毎の趣旨に応じた取組について

今年度は他の地域協働校とオンラインでの探究交流を行った。生徒の探究活動のジャンルごとにグループを作り、グループごとに発表・質疑を行った。

※連携校　　山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校

オ　成果の普及方法・実績について

地域との協働による生徒主体の復興推進活動「大槌高校復興研究会」に対する全職員での指導支援により令和２年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞した。

活動の内容や状況については学校ホームページで紹介している。また、大槌町の広報誌に毎月活動の様子を掲載し町内へ広報している。

各種報道機関へプレスリリースし活動を公開しており、テレビ・新聞等で取り上げられている。

管理機関が実施する各種会議等において本校の取組を周知し、地域と協働した教育活動による学校の特色化・魅力化を推進している。

（３）研究開発の実施体制について

ア　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメント推進体制
（２）①（ア）を参照
令和３年度から新カリキュラムの実施

イ　学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

教職員は「三陸みらい探究」の授業を行うため、週に１度、事前に打ち合わせを行い、各授業のねらいや進め方について検討を行う。また各授業には学年を担当している教員も一緒に授業に参加し、グループのファシリテーターなどを行っている。

また、全教員を「カリキュラムマネジメント」「校則検討」「探究」「三陸みらい探究」「全国募集」の４つのワーキンググループに分けて定期的に研究開発を進めた。

ウ　学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

研究開発・推進に関わる各施策は、学校長の指示のもと副校長が主に担当しており、必要に応じて校務運営委員会や職員会議で諮られる。また校内教職員で行う、年度中間反省会議や年度末反省会議で成果や課題について共有し、取り組みについての意見交換を行う。

エ　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

新しいカリキュラムについてコンソーシアム会議や魅力化構想会議の場で説明し、委員に検討してもらい助言を受けた。それを学校設定教科・科目に反映した。

また、三陸みらい探究で生徒の活動に対しても指導・助言をいただいた。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

＜添付資料＞目標設定シート

本事業申請時に提出した目標設定シートに準じて進捗状況の成果を検証する。

（１）卒業時に生徒が習得すべき具体的能力を測るものとして設定した成果目標

下記指標に対する４件法による１学年へのアンケートの肯定的回答の割合

番	設問	R1 入学生（2 年生）			R2 入学生（1 年生）		
		R2 6 月	R2 2 月	差分	R2 6 月	R2 2 月	差分
1	**課題の発見と解決に必要な知識および技能**	67.9%	61.9%	-6.00%	59.5%	54.1%	-5.40%
	―自分で計画を立てて活動することができる	66.7%	52.4%	-14.30%	56.6%	53.1%	-3.50%
	―現状分析し、目的や課題をあきらかにすることができる	69.0%	71.4%	2.40%	62.3%	55.1%	-7.20%
2	**探究の意義・価値理解、地域社会との関わり合い**	61.9%	61.9%	0.00%	51.9%	53.1%	1.20%
	―地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	61.9%	59.5%	-2.40%	52.8%	53.1%	0.30%
	―誰かに言われなくても自分から勉強する	61.9%	64.3%	2.40%	50.9%	53.1%	2.20%
3	**課題発見・解決への指向**	69.1%	64.3%	-4.80%	67.0%	60.2%	-6.80%
	―情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	78.6%	64.3%	-14.30%	69.8%	59.2%	-10.60%
	―地域や社会での問題や出来事に関心がある	59.5%	64.3%	4.80%	64.2%	61.2%	-3.00%
4	**主体性・協働性**	65.5%	63.1%	-2.40%	58.5%	63.3%	4.80%
	―忍耐強く物事に取り組むことができる	61.9%	59.5%	-2.40%	67.9%	69.4%	1.50%
	―自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる	69.0%	66.7%	-2.30%	49.1%	57.1%	8.00%
5	**価値創造への提案と次へつながる学び**	50.0%	50.0%	0.00%	55.7%	49.0%	-6.70%
	―国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	33.3%	40.5%	7.20%	37.7%	28.6%	-9.10%
	―学習を通じて、自分がしたいことが増えている	66.7%	59.5%	-7.20%	73.6%	69.4%	-4.20%

［考察］

・R1 入学生（2 年生）について

今年度の取り組みは、身の回りの課題解決に向けたマイプロジェクト活動であった。

自分で計画を立てて活動することや、情報の解釈に関すること等について減少がみられた。学年が上がったことによる学習内容の難化や、課題研究において自ら道筋を立てて活動していくことの難しさを知ったことが影響したのではないか。

一方で、現状分析を行うことに対する自信や地域社会への関心については増加が見られており、今年度三陸みらい探究で実施したプロジェクト活動の中で、課題解決のための方策を考え、地域社会に働きかけを行う経験を得たことで自己評価にプラスの影響が出たと思われる。

・R2 入学生（1 年生）について

今年度の取り組みは、自分の人生や地域の理想像に向けた提案を発表する活動が主であった。自分の考えをはっきりと相手に伝えることについては生徒自身が成長を感じられたが、それ以外の項目については課題解決の難しさを知ったことにより減じた可能性がある。

（２）卒業者の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合

		R1 実績	R2 実績	目標値(R3)
B	卒業者の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合	55.6%	57.7%	70.0%

（３）地域人材を育成する高校としての活動目標

		R1 実績	R2 実績	目標値(R3)
A	生徒が外部団体へ本校の取り組みをプレゼンテーションする機会の回数	２０回	２２回	３０回
B	外部から講師を招いて行う授業や講演会の回数	１９回	１２回	１５回

（４）地域人材を育成する地域としての活動指標

		R1 実績	R2 実績	目標値(R3)
a	大槌高校魅力化構想会議の年間開催回数	３回	３回	４回

１２　次年度以降の課題及び改善点

（１）学校設定教科「地域みらい学」および新しい学校設定科目の実施

すでに実施している「三陸みらい探究」に加え、新たに「ひょっこり表現島」「まちづくり探究」「くらしｍａｔｈ」「おおつちラボ」「Ｅパスポート」の５科目を追加する。新科目の円滑な実施と適切な活動評価が求められる。

（２）三陸みらい探究のルーブリック評価

ルーブリック評価については、目標とする項目について、生徒自身がその目標をめざしたいと思うことができるようにするための工夫が必要である。今年度はルーブリック評価表における評価項目を生徒に示しながら運用したものの、活動の中でその目標を意識させる機会

に乏しかった。また、目指すべき姿を教員から一方向的に示すのみにとどまった。目標に基づいた自己評価の機会を増やしたり、生徒自身が総合探究を通じてめざしたい姿を考えたりする等の工夫が必要である。

また、運用にあたっての負担を軽減するため、評価項目のスリム化を行っていく必要がある。

（３）継続可能な体制づくり

事業が２年目となり１年目よりも目標を明確にして取り組むことができた。取り組みの成果が実感できるほど生徒の成長を実感している。そのため、地域協働による探究活動が生徒の資質・能力の育成に効果があることを理解できた。一方、探究活動のサポートや新しい学校設定科目の実施など労力を要する仕事も多い。学校全体の業務の見直しも含め、事業を円滑に進めるための態勢の構築が必要である。

【担当者】

担当課	学校教育課　高校教育担当	ＴＥＬ	０１９－６２９－６１４０
氏　名	高橋直樹	ＦＡＸ	０１９－６２９－６１４４
職　名	主任指導主事	e-mail	takahashi-naoki@pref.iwate.jp

Ⅱ　研究開発の内容（詳細）

1　会議関係

（1）魅力化構想会議・地域協働事業コンソーシアム会議

大槌高校では、高校と町行政、町議会、各種学校の教育機関及び企業、研究機関との連携を拡充するとともに、生徒の主体的な学びへとつながる様々な教育機会の提供の充実を図り、県が設置するコンソーシアム会議と町が主催する大槌高校魅力化構想会議を設置している。

①魅力化構想会議委員・コンソーシアム会議委員

No	氏名	所属・役職	魅力化構想	コンソ委員
1	平　野　公　三	大槌町長	○	○
2	青　山　　潤	東大海洋研教授	○	○
3	小　松　則　明	大槌町議会議長	○	○
4	瀬　戸　和　彦	大槌高校校長	○	○
5	岩　崎　友　一	岩手県議会議員	○	
6	金　﨑　悟　朗	大槌町議会議員	○	○
7	菊　池　良　一	大槌商工会会長	○	○
8	今　村　久　美	ＮＰＯカタリバ代表	○	○
9	千　田　伏二夫	千田精密工業社長	○	
10	神　谷　未　生	おらが大槌夢広場代表	○	
11	高　木　正　基	大槌学園 PTA 会長	○	
12	芳　賀　　新	吉里吉里学園 PTA 会長	○	
13	佐々木　　亮	大槌高校同窓会長	○	
14	東　梅　康　悦	大槌高校 PTA 会長	○	○
15	北　田　竹　美	大槌町副町長	○	
16	沼　田　義　孝	大槌町教育委員会教育長	○	
17	松　橋　文　明	大槌学園学園長	○	○
18	浅　沼　寿　典	吉里吉里中学校長	○	
19	志　田　　敬	大槌高校副校長		○
20	藤　元　　衛	大槌高校事務長		○
21	押　切　道　子	大槌高校教務主任		○
22	熊　谷　一　郎	大槌高校生徒指導主事		○
23	菊　池　竜　太	大槌高校進路指導主事		○

②他出席者：

No	氏名	所属・役職	魅力化構想	コンソ委員
24	三　浦　大　介	大槌町参与兼総務課長	○	
25	藤　原　　淳	大槌町企画財政課長	○	
26	岡　本　克　美	大槌町産業振興課長	○	

③第６回大槌高校魅力化構想会議兼地域協働事業令和２年度第１回コンソーシアム会議

日　　時：令和２年６月

開催方法：書面開催

内　　容：会議委員について、令和元年度経過報告、令和２年度事業計画
　　研究開発成果の分析・検証等に関する、事業評価・分析について

発言要旨：

・　自立・協働・創造及び９つの育成指標に沿って生徒の成長につなげてほしい。
・　復興研究会やマイプロジェクトに取り組んでいる生徒はとても輝いていて、大人の我々もむしろ勉強になる。先生方やスタッフの皆さんの取組の成果と思います。
・　これまでの取組については成果もあげており、評価できるものと思います。しかし、これからは自分が町内外・県外の中学生や保護者だったら大槌高校に入学する気になるのかは別問題です。入学する前にも魅力を伝えなければならないと思いますが、その目玉を何にするのかを何かわかりやすく表現することが必要です。
・　「逆境から創りだす」例えば中学校で既に不登校だった、また入学してから不登校になってしまい行き詰まってしまった生徒を逆境から立ち直させることにしっかりと取り組んでいく覚悟が必要です。カタリバの今村代表が前回の会議でそのことを話していたので共感します。私は地元、地域の人間としてそのことに協力したいと思います。
・　外への発信をガンガンしていってください。良い取り組みをしているので、大槌高校がかわろうとしている、という姿勢を町内に見せていってほしい。それが分かれば、さらに一層、協力したい町民も増えてくると思うし、将来的に自分の子供を大槌高校に入れても良いと思う保護者も増えると思う。多少の懸念としてあるのが、カタリバが校内に入って生徒の利便性が高まったものの、さらに一層、校内のみで物事が完結してしまうことにもなりかねないな、と。生徒とスタッフ、先生も含め、用事があるから地域に出ていくのみならず、普段から地域との接点を持つ意識が必要になってくるのでは？

----

④第７回大槌高校魅力化構想会議

日　　時：令和２年 12 月 22 日（火）14 時 00 分～15 時 30 分

場　　所：大槌町役場大会議室

内　　容：経過報告、ワーキンググループの推進状況、マイプロジェクト探究発表、
　　来年度の事業方針、各関係機関との調整事項について

発言要旨：

・　高校在学生における給食の提供に関する検討を行う。
・　生徒の活動や関心についての情報公開を適宜行う。
・　女性委員が少ないため、女性委員の任命を行ってほしい。

⑤第８回大槌高校魅力化構想会議兼地域協働事業令和２年度第２回コンソーシアム会議

日　　時：令和３年３月 26 日（金）15 時 00 分～16 時 30 分

場　　所：岩手県立大槌高等学校

内　　容：令和２年度事業報告・決算、令和３年度事業計画・予算について
　　令和３年度構想会議委員について、給食の導入検討について

発言要旨：

［委員からの意見］

・　目標をすでに達成しているならば、次の目標を何と置くのかを議論すべきである。
・　会議の委員を見直す過程で、高校生や保護者も委員として入れるのはどうか。

［今後の方向性］

・　「地域みらい学」を通して、教科と探究を結びつけた横断的な学びを展開する。
・　県外生の推薦入試制度の導入について、引き続き要望する。
・　給食導入については、引き続き事務局で検討を重ねる。
・　令和４年度のコミュニティスクール化に向け、会議体や委員等の見直しを含めた持続可能な体制づくりを検討する。

（2）運営指導委員会

大槌高校では事業の効果を高めるため運営指導委員会を設置し、研究開発の実施状況について有識者から評価助言を頂いている。

①運営指導委員会委員：

番号	所属	氏　　名
1	東京大学教育学部教授	牧　野　　篤
2	岩手大学農学部名誉教授	廣　田　純　一
3	東京大学国際沿岸海洋研究センター准教授	田　中　　潔
4	前大槌町教育委員会教育長	伊　藤　正　治

②他出席者：

番号	所属	氏　　名
1	岩手県教育委員会 学校教育課主任指導主事	高　橋　直　樹
2	大槌高校校長	瀬　戸　和　彦
3	大槌高校副校長	志　田　　敬
4	大槌高校事務長	藤　元　　衛
5	大槌高校教務主任	押　切　道　子
6	大槌高校進路指導主事	菊　池　竜　太
7	１学年主任	野　田　啓　志
8	２学年主任	菊　池　直　美
9	３学年主任	鈴　木　紗　季
１０	大槌高校生徒指導主事	熊　谷　一　郎
１１	大槌町教育委員会学務課　班長	黒　澤　直　美
１２	大槌町教育委員会学務課　指導主事	八重樫　英　広
１３	大槌高校カリキュラム開発等専門家	菅　野　祐　太
１４	大槌高校地域協働学習実施支援員	起　塚　拓　志
１５	大槌高校地域協働学習実施支援員	三　浦　奈々美

③令和２年度第１回運営指導委員会

日　　時：令和２年６月 12 日（金）14 時 00 分～15 時 10 分

場　　所：岩手県立大槌高等学校

内　　容：経過報告

令和２年度事業計画に関すること

令和３年度教育課程編成に関すること

研究開発成果の分析・検証等に関すること

発言要旨：

・　評価ルーブリックは大人のありかたが問われる。生徒に関わる大人（教職員）こそが設定した力を高めていく必要がある。(廣田)
・　生徒の主体的な問いから始まるカリキュラムづくりを行ってほしい。(廣田・伊藤)
・　学習意欲向上の数値が上がっているのは、外に生徒が出ていったことなど地域と協働したことによる効果が大きかったのではないか（田中)
・　取り組みはPDCAではなくAAR（Anticipation-Act-Reflection）で行ってほしい。開放系で行っていくほうが新しい、思っても見なかったようなものが生まれる。”まずはやってみることを楽しむ”ようなものであってほしい。学校のカリキュラムや学校の文化も開放系に。(牧野)
・　地域との関わりはローカルコミュニティだけではなく、テーマコミュニティでの関わりもある。主体的なコミュニティの関わりを目指してほしい。(伊藤)
・　高校の存在が地域を変えることにつながるという高校の機能についても着目してもよいかもしれない（牧野)

----

④令和２年度第２回運営指導委員会

日　　時：令和３年２月15日（月）15時30分～16時30分
場　　所：岩手県立大槌高等学校
内　　容：経過報告、令和２年度事業計画に関すること
　　令和３年度教育課程編成に関すること
　　研究開発成果の分析・検証等に関すること
　　令和３年度の事業計画に関すること

発言要旨：

[令和２年度事業計画に関すること]

・　オンライン化や計画変更による余った事業費の柔軟な運用の可否について。設備投資に充てる等の対応は可能か。(牧野)

[学校設定教科に関すること]

・　学校設定教科の連携先については行政のみに頼るのではなく、多様な連携先を想定してほしい。(廣田)
・　一般教科が探究の基礎的な部分として非常に重要であり、一般教科の意欲を高めるためにも学校設定教科がある。(田中)
・　探究のカリキュラムを作る上で、「少しだけわからないものをわざと混ぜる」。地域の専門家やエキスパートの力を借りるなどし、ややわからない領域に触れさせる。「ここ理解したいのなら英語を頑張れ、数学を頑張れ」という教科の意欲づけにつながると良い。(田中)

[評価に関すること]

・　地域との連携協働に関する評価指標については、行動指標などを設定してもよいのではな

いか。（廣田）

［持続的な体制に関すること］

・　持続可能な推進体制の構築には、当事者である先生による検討が必要である。（廣田）

・　卒業生の関わり方を検討し、人の循環をつくることで持続可能な体制につながるのではないか。（牧野）

（３）地域協働研究協議会

日　　時：令和３年２月 15 日（月）14 時 30 分～15 時 15 分

場　　所：Zoom による開催

テ ー マ：地域協働研究協議パネルディスカッション

「県立学校と市町村のあるべき連携協働について」

パネラー：

・　東京大学教授　　牧野 篤　氏

・　大槌町長　　平野 公三 氏

・　大槌高校校長　　瀬戸 和彦 氏

（司会：岩手県立大槌高等学校カリキュラム開発等専門家 菅野 祐太）

発表内容：

[大槌高校が魅力化に取り組む背景]

・　高校存続が第一目的であるが、高校生が主体的に学ぶ姿こそ地域が輝く。（平野町長）

・　復興教育・復興活動・防災といった活動を地域と協働して取り組むことは、学校の使命である。（瀬戸校長）

・　Education by all として、子供たちを中心に置きつつ、地域全体で子供たちの教育を支えていくべきである。（牧野教授）

[高校魅力化による生徒・地域への変化]

・　地域課題を主体的に考えられる生徒が増えてきた。（瀬戸校長）

・　高校生の地域参画は行政職員にとっても良い影響があり、互いに刺激しあえる関係がある。（平野町長）

・　高校生や大人、地域などが相互に関わり合う（「＝駆動し合う」）ことで嬉しさ・楽しさが生まれ、多くの人々が巻き込まれていき、地域に良い変化が起きる。（牧野教授）

[県立学校と市区町村が協働していく上での難しさ]

・　町の本気度を伝えるため、自ら学校に足を運び、キーマンである県立学校教員にお願いした。（平野町長）

・　教員への理解が難しいが、生徒の成長を念頭に置き、互いに協議を重ねることが必要である。（瀬戸校長）

・　地域も責任を持って学校とともに一緒に子供たちを育てるという意識が必要。地域と学校の共通認識をつくり、長い目で見ながら協働していくことが重要である。（牧野教授）

［参考資料］地域協働研究協議会 発言録

（菅野）

45 分という短い時間のため、なるべく皆さんには本音でお話いただきたい。大槌だから上手くいった、あの人がいたから上手くいったというような話がしたいわけではなく、皆さんに何か持ち帰ってもらえるものがあったら良いと思っている。さて、どうして大槌町で高校魅力化に取り組むことになったのか。なぜ町が高校を必要としたのか。

（平野町長）

大きく影響しているのは 10 年前の東日本大震災津波である。大槌高校生が避難所活動をしていた。その後、復興研究会が立ち上がり、大槌の復興に高校生が関わっていく姿が見られた。高校生の活躍には目を見張るものがあり、町として高校生の存在を見直す機会となった。しかし、大槌町では子供たちの数が減ってきている。震災前に比べると、急激な子供の数の減少がそのまま大槌高校の入学者の減少につながった。平成 20 年には 120 人の子供たちが入学していたが、令和元年度には 42 名になったため、魅力化の取り組みを始める必要があった。

平成 30 年 5 月に海士町に訪問して、地域と高校が一体となる取り組みを視察し、本気で本音で取り組んでいることを私自身も実感した。特に、首長の山内道雄前町長の対応を直に感じた。やはり高校が輝くことが、地域を輝かせると思う。大槌高校の子供たちが少なくなっていく現状の中で高校を存続させることが第一目的であるが、高校生が主体的に学ぶ姿こそ大槌の地域の輝くものになっていくという強い思いがあり、この取り組みに向かって進もうと思った。

（菅野）

高校をただ存続するだけでなく、高校生が主体的に学ぶ姿が重要だとあるという言葉が印象に残った。町にとって魅力化が必要なのは分かったが、なぜ高校として魅力化を受け入れることにしたのか。

（瀬戸校長）

大槌町となぜ協働したのか、本校の魅力化がなぜ必要だったのか、の２点を話す。県外の方もいるので、地理的なことも合わせて話す。本校は岩手県の沿岸部にあり、東日本大震災津波では大きな被害を受けた地域である。復興教育・復興活動・防災というのは学校だけではできず、それらを地域と協働して取り組むことは学校の役割であり使命だと思い、大槌町と協働して防災等を取り組むことにした。平成 30 年 5 月には、県立高校では初めて大槌町との震災伝承活動に関する協定を結び、震災活動・情報発信をしていくことになった。

本校の魅力化について、地域の方々の意見を聞く機会があった。大槌町の隣には鉄とラグビーで有名な釜石市があるが、進学を目指すなら釜石高校に、就職・資格検定等の卒業後に具体的な就職を目指す生徒については釜石商工に、スポーツ・文化活動で高みを目指す生徒については私立も含めた内陸の高校に行かせるという声があった。また、大槌高校の生徒は良くとも、大槌高校には魅力がないので、大槌高校の存在意義は何かという厳しい声をいただいた。このままではダメだと思い、本校の魅力化に取り組むことにした。

（菅野）

先ほど大槌だからという話にはしたくないと言ったが、東日本大震災津波の影響は大きかったように思う。私も瀬戸校長がおっしゃった大槌高校に叱咤激励をいただいた会にも参加していたが、大槌学園・吉里吉里学園という町内の中学校から「大槌高校にはあまり行かせたくない」という声もあった。中学生が自分の自治体の高校に行きたがらないと悩んでいる自治体も多いと思う。牧野先生に高校の魅力化というものは全国的にどのような状況か伺いたい。高校魅力化は、今後広がっていくと予想されるか。

（牧野教授）

魅力化は海士町の隠岐島前高校が起爆剤となって、全国に広がりつつある。島根県内にも魅力化に多くの自治体が取り組み始め、それを推進する財団法人もでき、全国に展開しようとしている。大槌町は置かれている位置や震災経験など、ある種の特質性がある。子供たちが震災を経験しているということ、そして、そこから立ち上がっていこうとする大人の姿を見ていることで、多くのことを学んでいるのだと思う。その意味でも、大槌高校の一つの試みは意義がある。本来は、震災がなくともいろんな地域で魅力化が展開されることがあって然るべきである。釜石に行って進学するということだけでなく、各地域で様々な取り組みを実施し、子供たちがしっかり育っていくということが大事であると思う。

いくつかの地域に関わる中で、気になることがある。それは、地域振興や地域創生のために高校魅力化が良いとされ、高校の魅力化を経済部局が担当していることである。地元の人材育成も含めて、全国各地から生徒を集めようという取り組みもある。そこで起こる問題は、よそから地方の魅力を感じて来る子が頑張ってしまうために、地元の子たちが比べられてしまい、かえってやる気をなくすということである。地元の大人の都合に、子供たちを使われているというのを見ると違和感を感じる。大槌高校にも関わらせてもらっているが、子供を中心に置き、子供たちの生きる力をどのようにつけていくのかということを基本に考え、そこからカリキュラムが組まれ、いろいろな魅力化をしていく。つまり、子供たちが生き生きしているというのが背景にありながら、それが町の魅力化に繋がっていることが見られる。それを忘れると、子供たちを利用するということになりかねないし、そういう地域は魅力的ではない。子供たちが自分の将来を仲間とつくっていけると感じられる学校であり、それらを地域の方々が支えて一緒にやろうと言ってくれる場所が子供たちにとって魅力的である。もちろん、それは町の魅力にもなる。大槌であれば、被災し、そこから復興しようとしている大人の姿が重なることによって、高校の魅力化も地域の魅力化も加速していく。
従来は、Education for all と言って子供たちみんなのために教育を行ってきたが、これからはEducation by all、またLearning by all である。これは、自分たちでやるんだという気持ちが子供の自立を促し、新しい人生を見つけながら様々な活動を展開することで町の魅力につながる。子供たちを基本におきつつ、教育というのは学校だけでなく社会の基盤になるという観点からも魅力化を捉えるべきである。

（菅野）
「高校魅力化はだれのため」という議論が重要であることが分かった。Education by all というすべての人が関わっていくことの大切さに関する話もあった。先ほど皆さんには分科会を見ていただいたが、このような探究がどのように行われてきたのかについて話したい。町長、これらに町は具体的にどのように支援をしてきたのか説明いただきたい。
（平野町長）
大槌町と高校が協働することによって２つの取り組みが始まった。①高校魅力化構想会議の設置、②魅力化推進員の派遣である。
１つ目は、海士町から戻ってきて高校魅力化を進めていく旨を瀬戸校長と協議した。平成30年12月に「大槌高校魅力化構想会議」を設置し、私自身が会長を務め、副会長には町議会議長、そして瀬戸校長にも参画いただいている。その他にも、PTA・小中義務教育学校・町内にある大学・研究機関・企業・まちづくりNPOなどを委員として参画して、高校を支援する体制づくりをした。当初魅力化について、それぞれの想いが一緒ではなかった。ここ２・３年の活動の中で、徐々に委員が相互に高校魅力化をしっかりと捉えるようになった。
２つ目は、町では３名の魅力化推進員を大槌高校に派遣している。震災後から町の教育復興に尽力いただいているカタリバというNPOに派遣を依頼しながら、３名が高校に朝から常駐しながら、町行政や教育委員会と連携し授業やマイプロジェクトなどの高校生への支援をしてもらっている。３人の推進員が町と学校とのコーディネーターになり、高校魅力化を進めている。
（菅野）
高校魅力化構想会議と魅力化推進員を町として取り組んでいるという話があったが、瀬戸校長に推進員３名の役割や期待について伺いたい。
（瀬戸校長）
本校の魅力化のすべてのことに関わってもらっているが、総合探究を計画して実施することがメインである。マイプロジェクトなども含めてである。期待は、総合探究で地域の方々との結びつきが強くなることで、生徒のいろいろな経験が積めるのではないかということである。大学が求める従来の偏差値だけではなく、地域と協働することによる生徒の成長は大きいものだと思う。
（菅野）
推進員が総合探究を担っているということで、先ほどの分科会であったような生徒の発表をまとめていくような支援しているということだった。これらを通して、生徒の変化はあったか。
（瀬戸校長）
生徒が自分の考えをしっかり述べ、行動に移すことができるようになった。一番身近な地域課題である「学校をどうすべきか」「高校生活をどうするべきか」というものを、主体的に考えられる生徒が増えてきたと思う。成果としては、マイプロジェクトの県大会で全国大会に出場する４組中２組は本校であった。進路では、国公立大学では私が赴任した１年目は

ゼロ、昨年度は２名、今年度は５名で、生徒が減少しているのにもかかわらず、生徒が成長して自分の進路にも意欲的に取り組んだ成果が出てきている。

（菅野）

マイプロジェクトのような活動が進路にも成果が出てきているという話があった。高校の生徒に変化が出ることは分かったが、町や地域にも変化があったのか。

（平野町長）

１つ目は、町民に対しての影響である。最近は、地域行事へのボランティア等で高校生に参加してもらっている。先日の地区の避難訓練には高校が５名参加していたが、若者が参加することで地域の本気度が増してくる。マイプロジェクトでも地域の方々に協力をお願いしながら、お互いに刺激しあっている。高校生と話すことで自分自身ももっと勉強しなければならないという人、高校生が会って声をかけてくれるのが嬉しいという人など、お互いに刺激しあえる状況である。

２つ目は、行政職員への影響である。高校と連携して、行政職員が町の事業について高校生に説明する機会がある。非常に勉強して、高校生と職員が様々なやり取りしている。また、マイプロジェクトで、町の防災行政無線を研究している生徒がいたが、実際に改良に向けて行政が動き始めた。高校生が率直な視点で声をあげ、行政側もしっかりと答えていくというやりとりが、子供たちの意欲につながっていくのではないか。

（菅野）

このような良い影響をさらに広げていくために、牧野先生はどのような工夫ができると思うか。

（牧野教授）

質問を質問で返すようだが、推進員の３名も変わったのではないか。子供たちと付き合う中で、自分たちも変わったという感覚を持ったのではないか。

（菅野）

日々大変な中ではあるが、生徒と接しながら考えさせられることが多い。最初に思っていた高校魅力化をこうしたいという思いは、良い意味で崩された。

（牧野教授）

そうやって段々とお互いの良い関係ができてくるものである。魅力化はこうすべきだというのはなく、それぞれの地域であるべき姿がある。高校生も、コーディネーターも、先生も、地域の方も、それぞれの関係の中で変わっていくことを自ら感じ取り、嬉しい・楽しいといった感覚が生まれているのではないか。よく大人は、「課題を解決するために」と言うが、課題解決のために何かをすると負担感があり、責任感が強い人ほど続かないことが起こる。先ほど分科会Ａの報告を受けて、生徒がとても楽しそうに取り組んでいるように見えた。「大槌町フィルム」の岡崎さんが「想像（イマジネーション）」がベースにあって、「創造（クリエーション）」へと繋がると言っていた。それは、お互いのことを想像しあい、相互の関係のなかで相手のために自分に何ができるのかを考えること。役に立っている、ありがとうという反応から楽しさが増えていくことである。楽しいというのは一時の楽しさではなく、じわじわと感じる楽しさを表す。そのうちに、課題が課題でなくなってしま

ったり、あるいは課題が起こらない社会が実現したりできるのではないか。自分たちが担っているのが嬉しくなった、もっとやろうと巻き込まれていくのが魅力化の魅力ではないか。海士町に伺ったときに、元々は島に留学生が来ることに反対だった町民に出会った。今は賛成派で、学校のために何でもやるという方である。なぜ変わったのかと聞いたら、毎朝 島留学にきている子たちが登校時に「おはようございます」と言ってくれることがきっかけだった。今までそういうことがなかったから可愛くなり、この子たちのためなら一肌脱いでやろうと思い始めた。何かをやり始めたら、また子供たちが「ありがとう」とか「これ教えてください」とか言われ、関係性ができていくなかで気がついたら一番強い支援者になっていた。それぞれの地域で作り方があるが、お互いが「駆動し合う」べきである。それは、お互いが楽しくなって、次もやってみようと動いていく、そうせざるを得ない関係のことであり、魅力化の醍醐味である。

地域の良質な変化が起こるというのは、課題解決・地域活性化の先にあるものである。「納豆の糸」という地域食堂に向けた活動に取り組んだプロジェクトがあった。その生徒は、居場所があると言ってもきてくれないけど、ごはんがあるよというと来てくれて、それが居場所になると話していた。課題解決のために行きましょうではなく、みんなで楽しいことがあるよという中でだんだんと居場所になり、自分たちでこれやろう・あれやろうと大人を巻き込んでいく。それを彼女たちは「アリの巣理論」と名付けてアリが巣穴を掘っていくように広げていくと言っていたが、そういう関係性ができることが大事であり、質的に変わっていく。質的に変わるとは、課題を解決することじゃなくて、日常で課題が起こらないようにお互いに配慮していく生活が送れるということ。

（菅野）

生徒の発表について価値付けしていただいた。課題というと重く受けとめてしまうが、変わっていくことを受け入れることが重要だと思う。町と県立学校は協働するときに難しさがあったと思うが、率直に教えていただきたい。

（平野町長）

2019 年に大槌高校は 100 周年を迎えたが、100 年の歴史の中で町と高校が何かやろうと一緒に考えるのは初めてのことだった。震災の話もあったが、子供たちの数が少ない中で県でも統廃合の話が出てきており、厳しい状況にあった。大槌高校に対して、どのようにしたら想いが伝わるのかが難しい。100 年も一緒の場所にありながら、行政として高校について考えていくことがなかった。それは、県立だから敷居が高いということもあった。すぐに一緒にやろうとなったのではなく、お互いに調整できない部分や合わない部分もあり、町と学校がスクラムを組むには時間がかかった。構想会議や推進員などの取り組みが功を奏して、徐々にスクラムがしっかりしてきた。

（菅野）

校長はどのような難しさがあったか。

（瀬戸校長）

本校は県立学校として、大槌町との協働について当初は認識のズレがあったし、今もあるかもしれない。しかし、そういうところを解決するために今も協議を重ねている。お互いに

すり合わせや協議をする時間をたくさん取ることが重要であると感じる。大槌町長は一生懸命であり、大槌町から魅力ある人材をつくるんだという気持ちや、幼・保・小・中・高と18年間の学びを保証するという考え方は一緒である。ただ、内部のところで総合探究の先行実施、魅力化、新学習指導要領、時代・社会の変化に学校が対応することについて、先生方の理解を得ることが難しい。管理職の責任としてどのように対応すべきか考えさせられる。

（菅野）

それぞれの難しさについて、どのように乗り越えていったのかについても聞きたい。

（平野町長）

魅力化を進めていく中で何より大事なキーマンは、先生方である。県立学校の先生方に町の本気度をどう伝えるかを考えたときに、年度当初に職員会議に足を運び、自ら先生方にお願いをした。また、先生方の歓迎会に顔を出して、お酒を交わし、交流を深めた。先生方に、大槌町が進めようとする高校魅力化を理解していただくことが大事。高校の先生方は異動があるため、新たな先生がきても持続的にするためには、大槌高校にぜひ転勤して勤めたい、魅力化って良いことだと思ってもらえることが重要。

（瀬戸校長）

昨年度の年度始職員会議に、町長から10～15分くらい話をしていただいた。本来なら校長が方針を話す場面だが、町長に話していただくというのは私の教員生活でも初めての経験であり、町の本気度が先生方に伝わったのではないかと思う。やはり新しいことをやっているので、新しいことを理解するのは先生方にとっても時間がかかるのではないかというのが壁である。先生方から、前の学校では、前の校長とは違う、前の大槌高校ではこんなことをしないというご批判も受けた。まだそういう考えもあるかと思うが、生徒の能力を伸ばすことを念頭に置き、管理職としてはこれから教育を担っていく先生方に成長をしてほしいという想いで、壁は高いけど乗り越えていきたいと思っている。

（牧野教授）

他の地域でも、地元の自治体はやりたいが、県立高校であるという遠慮があるという話を聞く。設置自治体と地元の自治体が違うのは難しい。近年では、北海道が連携・協働が進めているように思う。先生方は教育の専門職なので、地域と関わると負担が増えることを警戒したり、実際負担を感じたりする人もいると思う。国も求めている高校も含めたコミュニティスクール化は、地域が学校に関わって学校を支えるということ以外に、地域も一緒に責任をとるということも言われている。地域学校協働本部というのは、地域が学校に関わり学校にあれこれ言うのではなく、関わった以上は地域も責任をとる、一緒になって子供を育てましょうというものである。先生方が教育の専門職として力が発揮でき、子供の成長に喜べるようになることが必要である。子供たちが変われば保護者が変わり、地域が変われば先生方に対してありがとうと言える関係になる。先生方もそれらの経験を通して変わっていく。

「命を繋ぐ防災」の植田くんの発表を聞いて、大人ってあれこれ考えていてダメだと思った。時に一番大事なものがわからなくなってしまうが、彼は命を救うためにどうするべき

か、防災訓練ではなく判断が大事だということを言っていた。つまり、地域と学校がお互いに何が一番大事なのかを考えられる関係性でいられると良い。

大学にいると、偏差値だけでは人生100年時代を生きるのが難しいように感じる。新学習指導要領は、初めてこども園から高校までの15年間を一貫したものとしてつくられた。人生の初期で受ける教育では、生涯学び続けて、仲間と一緒に人生を歩み続けることの基礎をつくるのが大事になる。知識を詰め込めば良いのではなく、マイプロのように言葉を使って自分を表現できること、相手のことも受け止めること、お互いの想像力を働かせながら新しいことを創造していく経験を積み続けることが大事である。そうしたことをできる関係性を、学校と地域が作っていくべきではないか。そうすれば先生方も変わっていき、カリキュラム編成権を持っている学校が校長先生を中心に一緒になって考えていってほしい。意識を変えるのは３年くらいかかるため、長い目で見ながら地域と協働していくべきである。このような教育が。子供たちがこれから力強く歩んでいく基礎になるという共通認識をつくっていくべきである。

（菅野）

牧野先生より分科会で発表を聞いていただいた生徒全てについて触れていただいた。答えがない魅力化のなかで、学びながら変わり続けていくという姿を牧野先生自身が体現してくださったのではないか。

最後に、岩手県教育委員会高校教育課総括課長 中川氏からコメントをいただきたい。

（中川総括課長）

県教委としては、今後県内すべての学校に魅力化を広げていきたい。大槌高校は、魅力化をとことん突き詰めてもらいたい。横展開は県教委がやるので、とことん穴を掘って深めてもらうことが岩手県の魅力化につながる。牧野先生のEducation by allにもあったように、どれだけ子供たちに笑顔の大人が関わっているかが肝になる。県教委としても支えていきたい。

（菅野）

最後に、牧野教授から一言いただきたい。

（牧野教授）

魅力化は新しい取り組みであり、教育は制度が出来上がっているだけに変えることが難しい。私たちが一番大事にすべきなのは、子供たちの将来どうするかということ。従来は進学していれば何とかなったが、100年を生き抜かなければならない時代で価値が多様化している中、あと10年で私たちが生きてきた社会はなくなってしまう。いまある仕事の５割が人口知能に替わられる時代に生きようとしている。子供たち自身が自分で自分の人生をつくる力を育てる、それは仲間と一緒になって様々な体験をしながら、学び直しを続けていくことである。それらの力は、地元や社会をつくっていく力になる。自分が社会の担い手だと思えるような当事者になることが大事である。そのためには、国民教育としての最終段階の高校が非常に大事になっていく。魅力化をどんどん突き詰めていくなかで、岩手県らしいもの大槌高校らしいものをつくってほしい。

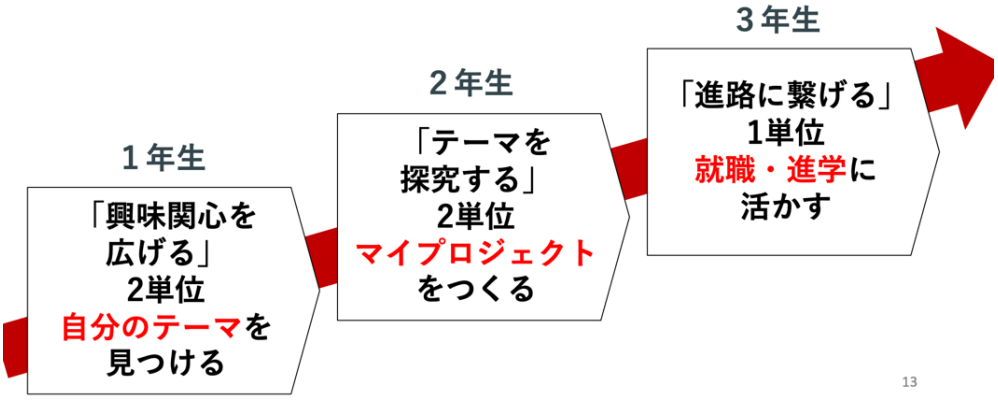
2　学校設定科目「三陸みらい探究」

（1）科目概要

「三陸みらい探究」は三陸地域の復興を担うリーダーを育成することを目標に、３年間を通して身の回りや地域の課題を解決する力を育む科目である。同科目では、大槌町というフィールドを題材に、地域課題の発見・解決に向けた活動を実施する。

東日本大震災津波を経験した大槌町を題材にすることで、生徒は複雑多様な地域の事情や住民感情のジレンマに触れることになる。そのような状況から、自分自身をみつめ、在りたい理想の姿を思い描き、それを実現するための実践を行う。こうした学びを通して、地域をつくる側の視点を持ち社会参画する意欲と力を涵養するとともに、今後ますます不確実性の高まる将来を生き抜く力を育むことを目指している。

大槌町においては、震災後の生活基盤の復旧はほぼ完成を迎えている。今後は高校生が社会の構成員として主体的な意志をもち、目指したい姿に向かい行動を起こすことも復興の姿そのものとなる。三陸みらい探究では、そうした地域におけるロールモデルの基盤となる資質・能力を形成したい。３年間を見通した流れは以下の通りである。



昨年度は、１年生・２年生を実施対象としていたが、今年度は３学年も含めた全学年で取り組みを進めてきた。１年生では「興味関心を広げる」をテーマに、自分紹介プレゼンテーションや町内外の大人による人生講話、大槌町の行政をシミュレーションするワークショップ活動等に取り組んできた。自分自身に目を向けるところから徐々に視点を社会へ広げ、町内・町外の具体的な取り組みを知り、課題解決を体験的に学ぶ機会を設定している。

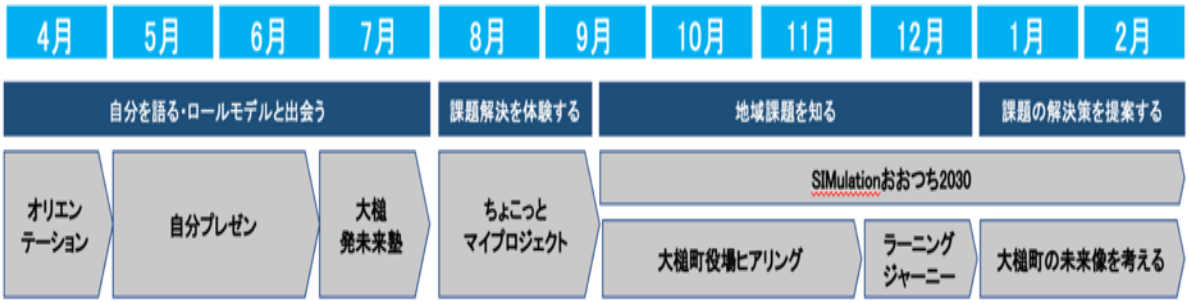
２年生では「興味関心を探究する」をテーマに、自ら設定した探究テーマでプロジェクトを企画し、実行するマイプロジェクト活動に取り組んだ。各自の興味・関心から問いを設定し、他者や地域を巻き込みながら問いの検証を繰り返すことで、実践的な探究活動を目指している。

３年生では「進路に繋げる」をテーマに、大学・短大進学を目指す文理コースでは希望進路に紐づいたテーマでの探究活動、専門学校・就職を目指す「教養コース」では就きたい職業の未来を考える活動を実施した。また、18 年間で得た強みや知見を語るプレゼンテーション活動を通して、これまでの学びを総括した。

（２）１年生「興味関心を広げる」

１年生では、自分と社会に目を向けながら心が動くテーマを探すことを目標に、自分紹介プレゼンテーションや、町内外のゲストによる人生講話、大槌町役場へのヒアリングや町外視察を通して未来のまちづくりに向けた提案を行う活動に取り組んでいる。２年生で行うマイプロジェクト探究活動に向けた下地作りの時期と位置付け、生き方・考え方を見つめ直し、自分と地域社会との関わりを考える機会を繰り返し設定している。

１年間を通した授業の流れは以下の通りである。



①自分プレゼン（４月～６月）

総合探究を始めるにあたって、自己発見・自己理解を深めることを目的に、自分自身をプレゼンテーションで表現する「自分プレゼン」に取り組んだ。「自分プレゼン」を町内の中学３年生に語ることで、より深い理解へとつなげることを目指した。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため発表はオンラインで行った。発表先である大槌学園、吉里吉里学園と３校合同でオンライン接続し、すべてリモートでの発表会となった。

◆授業の流れ

回数	日程	内容
1	４月１４日（火）	オリエンテーション
2	４月２８日（火）	傾聴力について考える
3	５月１２日（火）	自分グラフを使っての自己理解
4	５月１９日（火）	ロールモデルの自分プレゼンを聞く
5	５月２６日（火）	自分プレゼンをつくる①
6	６月２日（火）	自分プレゼンをつくる②
7	６月９日（火）	自分プレゼンをつくる③
8	６月１８日（木）	自分プレゼン発表練習（iPad での発表練習）
9	６月２３日（火）	自分プレゼン発表練習（zoom の使い方を知る）
10	７月１日（水）	自分プレゼン発表練習（リハーサル）
11	７月３日（金）	自分プレゼン発表会（町内中学３年生にオンライン発表）

◆オリエンテーション

オリエンテーションでは、年間を通した目的と流れを説明し、自らの意志をもち主体的に行動する「マイプロジェクト」を実施することへの意識づけを行った。

また、授業全体を通してお互いの意見や考えを交流させる機会が多いため、心理的安心のある環境づくりのためアイスブレイク活動（人間知恵の輪・共通点探しゲーム・傾聴トレーニング）を実施した。アイスブレイク活動のなかでオンライン会議システム zoom を活用したグループ分けを行い、生徒がオンラインツールの使用に慣れる機会を設けた。

◆自己理解ワーク＆ロールモデルの自分プレゼンを聞く

自分プレゼンテーションのお手本として、コラボ・スクールの職員３名に授業に参加いただいた。「私の人生を変えてくれた出会い」「過去の私に伝えたいこと」などテーマに分かれてプレゼンテーションを聞き、自分が行う発表へのイメージづけを行った。

◆自分プレゼンの作成

紙芝居形式で自分紹介プレゼンテーションを作成した。紙で手書きの発表スライドを作成してから画像データとして保存し、iPad から zoom の画面共有機能を使って発表をする練習を行った。

◆自分プレゼン発表会

日　時：令和２年７月３日（金）5,6 校時

場　所：大槌高校体育館（大槌学園生徒)、吉里吉里学園校舎（吉里吉里学園生徒）

テーマ：「中学生に自分プレゼンを伝えることを通じて、自分について考える」

対　象：大槌学園９年生、吉里吉里学園９年生

実施方法：オンラインにて実施（大槌高校・大槌学園・吉里吉里学園の３校同時接続）

開始	終了	内容	進行
	13:50	・所定の iPad から接続	各校教員
13:50	13:55	［始めのあいさつ］ ・生徒司会（大槌高校生）より	教員司会(起塚) 総合司会
13:55	14:05	［アイスブレイク］ ・ オンラインでのコミュニケーションを円滑にするルール確認（うなずき、ハンドサイン等）	アイスブレイク担当生徒２名
14:05	14:07	［ブレイクアウトルームへ接続］ ・所定のグループへ接続	教員司会
14:07	14:10	［グループ内自己紹介］	グループ司会
14:10	14:20	［発表１人目］ ・ 高校生１人目発表（６分） ・ 学園生より質問をうける（４分）	グループ司会
14:20	14:30	［発表２人目］ ・ 高校生２人目発表（６分） ・ 学園生より質問をうける（４分）	グループ司会
14:30	14:40	［発表３人目］ ・ 高校生２人目発表（６分） ・ 学園生より質問をうける（４分）	グループ司会
14:40	14:45	［感想記入］	グループ司会
14:45	14:48	［感想共有］ ・班内でお互いに感想を共有	グループ司会
14:48	14:50	［メインセッションへ接続］ ・ブレイクアウトルームから退出する	教員司会
14:50	14:57	［全体感想共有］ ・大槌学園生・吉里吉里学園生より１名ずつ全体感想共有 ・大槌高校生より感想共有	総合司会
14:57	15:00	［終わりのあいさつ］ ・生徒司会より	総合司会

高校生は体育館からオンライン接続を行った。等間隔に iPad を設置し、２人ペアで１つの端末を使用した。大槌学園は自校の体育館から３～４名に１台、吉里吉里学園はパソコン室から１人１台の端末を使用して接続を行った。

司会進行・アイスブレイクの運営も生徒が行い、小グループにわかれて中学３年生への発表を行った。発表後は中学生からの質疑を受け、中学生側はプレゼンを聞いてから、高校生活に向けた自分の決意をまとめる活動を実施した。

◆生徒の感想

・「自分プレゼン」の活動を通して自分について改めて振り返る事ができたし、これから自分は３年間の高校生活をどのように過ごしていきたいのか考えることができました。この振り返るという時間を通じて自分と向かい合う事ができました。このプレゼンをするにあたってリモートという初めての試みのなかどうしたら中学生に分かりやすく発表する事ができるかなど初めての事だらけだったからこそいろいろと考える事ができました。

・自分が 16 年間生きてきた中での振り返りにもなり、いい機会になった。自分の成長と共に振り返ったその時の気持ちの変化は、当時は考えることができなかった深いことも考えさせてくれる良いものだった。また、今一緒に生活しているみんなも、みんな違った経験や失敗を通してそれぞれの考えを持っているということを知った。

②大槌発みらい塾（７月）

「大槌発みらい塾」とは、町内外や多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、今後の進路・自らの未来を考えていくための材料とすることを目的としたミニ講演会である。１学期三陸みらい探究では自分と向き合うことを通じて、自分の興味関心を探るという活動を行ってきた。さらにその学習を進めるために、高校生のロールモデルとなりうる地域内外の大人を招いて話を聞く機会を設けた。

日　時：令和２年７月 21 日（火）２・３・４校時

場　所：大槌高校体育館

テーマ：「身の回りの課題に取り組むチャレンジャーと出会う」

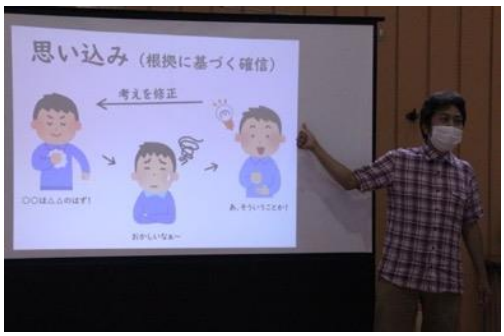
対　象：大槌高校１、２年生

◆講師・プロフィール

番	ジャンル	所属・氏名	プロフィール	エリア
1	水産業 ブランディング	共和水産株式会社 鈴木良太氏	宮古市の水産会社で「イカ王子」ブランドを設立し、海産物の販売促進に取り組んでいる。	宮古市
2	海洋研究	東大海洋研究所 大土直哉氏	新種の「オオヨツハモガニ」発見者。東大海洋研究所でカニ類を研究対象としている。	大槌町
3	報道	NHK 盛岡放送局 林沙羅氏	NHK 盛岡放送局ディレクター。大槌町の震災関連特集番組を制作（2020 年 3 月放送）。	盛岡市
4	産業振興	大槌町役場 佐藤明氏	大槌町の産業振興課員として、町内のジビエ産業活性化に情熱的に取り組んでいる。	大槌町
5	地域振興	釜石ローカルベンチャー 細江絵梨氏	鵜住居復興スタジアム周辺の観光開発やコーディネーター事業等、幅広い事業を実施	釜石市
6	教育	NPO 法人 SET 上田彩果氏	陸前高田市の NPO 法人で中高生を対象としたキャリア教育事業に取り組んでいる。移住者。	陸前高田市
7	起業	あずま家 東谷いずみ氏	釜石仲見世通りでゲストハウス「あずま家」を経営している。本校卒業生。	釜石市
8	大学生	岩手大学 吉田雪希氏	陸前高田市出身。高校時代に町の未来を語る座談会を企画しマイプロアワード全国大会出場。	盛岡市

9	大学生	東北公益文科大学 外山楓氏	宮古市出身。高校時代に宮古の魅力発信活動に取り組みマイプロアワード全国大会出場。	山形県 酒田市

代表生徒が司会を務めアイスブレイク等を実施した。生徒は町内外９名の大人から２名を選び小グループで話を聞いた。町内の社会人からは、東日本大震災の経験や事業を立ち上げた経緯に関する内容が多く、同じ地域で高い志を持って生きるロールモデルの姿に胸を打たれている様子だった。



◆生徒の感想

・外山さんの「おもしろそう！と思ったことをやってみる」という挑戦する勇気があるところにとても心惹かれました。私は慎重に物事を考えてしまうので、やりたい！やってみたい！と思ったことを失敗するのを恐れて、いつも見て見ぬふりをしてしまいます。外山さんのやってみたい！と思ったことをやってみる積極性を見習いたいです。マイプロや海外留学、色々なことに興味があるので、自分の成長のためにやってみようと思えました。

・自分にもともとある肩書きみたいなものに苦しめられたりしたことは、自分もあるから、まずは、自分の目の前にある問題の解決を目標として生活していきたい。自分の叶えたい理想のために、今、努力することは、必ず未来の自分に大切な力だと思うから、これからは、勉強も部活も頑張っていきたいと思います。しんどいことも乗り越えていきたい。目の前の人を一人の人間として接していきたいし、日々の努力を忘れずにコツコツ頑張っていきたいです。

・「変化」というのは悪いことばかりではない、自分の新たな刺激となることもあるのだなと

感じた。講演を聞いていて、話に多くは出てこなかったものの、とても多くの周りの人の支えや、繋がりがあるのだなと感じた。
人と人との交流の場を作りたいという意志にとても感動した。さらに実現を遂げている。とても感心した。自分も「変化」を楽しみながら、将来を考えて行きたい。

③ちょこっとマイプロジェクト

身近な課題解決を体験することを目的として、１週間で取り組む「ちょこっとマイプロジェクト」を実施した。後続する SIMulation おおつちで町の課題解決に向けた提案を行うことを見据えて、それまでに取り組んできた自己理解やロールモデルと出会う活動との橋渡しをする時期として位置づけた。「自分のやってみたいこと」と「誰かを喜ばせること」の２点を軸に、好きなテーマで１週間のプロジェクトを立案して実施し、成果発表を行った。

◆授業の流れ

回数	日程	内容
１	８月２０日（木）	オリエンテーション
２	８月２７日（木）	「ちょこっとマイプロジェクト」計画立案
～「ちょこっとマイプロジェクト」実施期間～		
３	９月１５日（火）	「ちょこっとマイプロジェクト」発表準備①
４	９月２４日（木）	「ちょこっとマイプロジェクト」発表準備②
５	10 月１日（火）	「ちょこっとマイプロジェクト」発表会

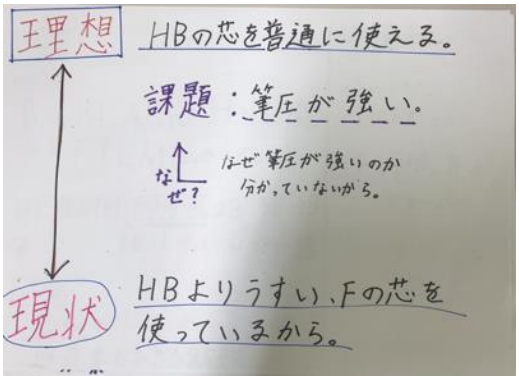
◆「ちょこっとマイプロジェクト」計画立案＆実施

生徒が立案した「ちょこっとマイプロジェクト」には、以下のような企画があった。

・自分と家族のお弁当を１週間つくる
・シャープペンシルの筆圧と芯の折れやすさの関係を調べる
・集中力が長続きする家庭学習の方法を探す
・近所の散歩道にある風景を記録する

◆「ちょこっとマイプロジェクト」発表

７名程度のグループに分かれて、「ちょこっとマイプロジェクト」の成果を紙芝居形式で発表した。また、各グループから推薦された２名の生徒が、学年全体で発表を実施した。



④SIMulation おおつち 2030（SIM おおつち）

SIMulation おおつち 2030 とは、大槌町の行政運営をワークショップ形式で体験するロールプレイング学習である。大槌町が実際に実施している行政事業をモデルにした「事業カード」を用い、各事業の必要性について議論しながら、2030 年の大槌町の行政を考える。

６人組で１グループとし、それぞれの参加者は大槌町の行政部局の「部長」という役割が与えられ、少子高齢化に伴う税収減のため事業削減を余儀なくされたという背景ストーリーの中で、事業の優先順位について考える。

学習は

㋐大槌町の行政事業について分野別にわかれて調べる（大槌町役場フィールドワーク）

㋑行政事業の優先順位を考え、まちづくりの理想をあらわすキャッチフレーズを考え（事業の優先順位決め）

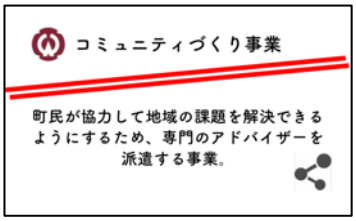
㋒町外を視察し、具体的な地域課題の解決策を（三陸復興ラーニングジャーニー）

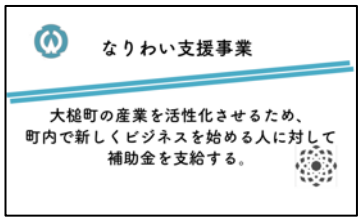
㋓大槌の理想の未来像に近づく提案アイデアを考え発表する（大槌町の未来像を考える

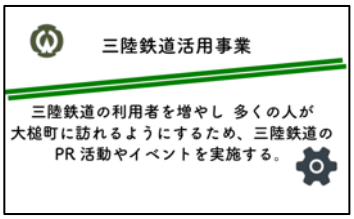
という順番で行った。

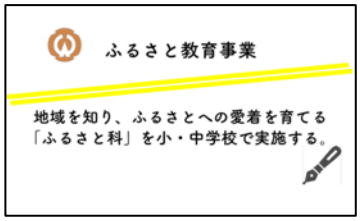
《事業カード》

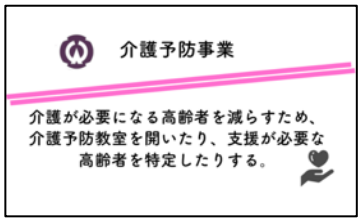
大槌町の行政事業をモデルにしたカード。第９次大槌町総合戦略の柱を参考に「産業振興」「まちづくり」「教育文化」「防災環境」「健康福祉」「復興未来」の６カテゴリに分類して仮想の部局とし、それぞれの部局から３枚ずつ全１２種類のカードを設定した。事業カードの選定は１学年の先生方で行い、カードの内容は大槌町役場各課の助言をいただいた。

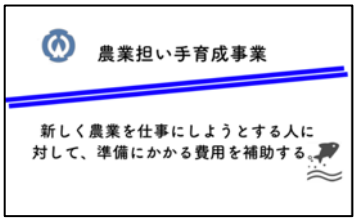












【SIM おおつちで設定した事業カードと実際の事業】

仮想部局名	SIM おおつち事業カード名	実際の事業名（所管）
産業振興部	有害鳥獣対策事業	鳥獣被害対策事業（産業振興課）
	ふるさと納税事業	ふるさと納税特産品贈呈事業(企画財政課)
健康福祉部	保育充実事業	総合健康づくり事業（保健福祉課）
	地域包括ケア事業	協働による包括的支援体制の充実(長寿課)

教育文化部	おおつち教育魅力化事業	子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業（学務課）
	伝統文化保護事業	大槌町郷土芸能活性化事業補助金（生涯学習課）
防災環境部	三陸鉄道活用事業	三陸鉄道利用促進事業（企画財政課）
	防災・減災対策事業	消防団強化事業（総務課/危機管理室）
地域活性部	UI ターン推進事業	おおつち移住・定住推進事業（産業振興課）
	コミュニティづくり事業	コミュニティ形成支援事業（コミュニティ総合支援室）
復興未来部	起業支援事業	なりわい支援補助事業（産業振興課）
	水産業振興事業	水産業振興事業（産業振興課）

◆授業の流れ

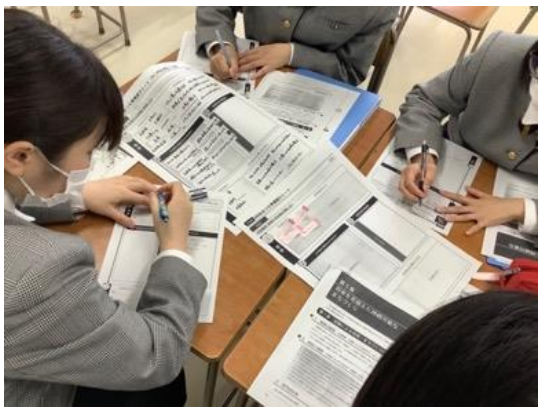
回数	日程	内容
１	１０月８日（木）	オリエンテーション
２	１０月１５日（木）	グループ分け
３	１０月２９日（木）	事前学習
４	１１月５日（木）	大槌町役場フィールドワーク
５	１１月１９日（木）	大槌町役場フィールドワーク振り返り
６	１１月２６日（木）	「ありたい町のすがた」ワークショップ
７	１２月３日（木）	「ありたい町のすがた」ワークショップ
８	１２月１０日（木）	三陸復興ラーニングジャーニー準備
９	１２月１７日（木）	三陸復興ラーニングジャーニー準備
１０	１２月１８日（金）	三陸復興ラーニングジャーニー当日
１１	１２月２４日（木）	三陸復興ラーニングジャーニー振り返り
１２	１月１４日（木）	大槌町の理想像を考える　提案アイデア考案
１３	１月２１日（木）	大槌町の理想像を考える　提案アイデア考案
１４	１月２８日（木）	大槌町の理想像を考える　提案アイデア考案
１５	２月１０日（水）	大槌町の理想像を考える　発表ポスター作成
１６	２月１２日（金）	大槌町の理想像を考える　発表練習
１７	２月１５日（月）	大槌町の理想像を考える　発表リハーサル
１８	２月１６日（火）	大槌町の理想像を考える　発表本番

㋐大槌町の行政事業を知る

SIM を実施する６人グループをつくり、それぞれのメンバーを仮想部局「産業振興」「まちづくり」「教育文化」「防災環境」「健康福祉」「復興未来」のいずれかに割り振った。

自分が担当する部局の事業（それぞれ３つずつ）について、部局担当別にわかれて新聞記事等を用いて情報収集を行い、それぞれの事業の必要性について理解を深め、ワークシートにまとめた。

部局別の学習後は再び６人グループに戻り、それぞれの事業の必要性について共有し、ジグソー法的にすべての事業の必要性について理解を深める時間を設けた。



◆大槌町役場フィールドワーク

各事業の必要性について理解を深めるため、行政事業カードに対応する事業を実際に所管する大槌町役場職員から聞き取りを実施した。

生徒が各課を訪問し、担当者にヒアリングを実施した。

◆生徒の感想

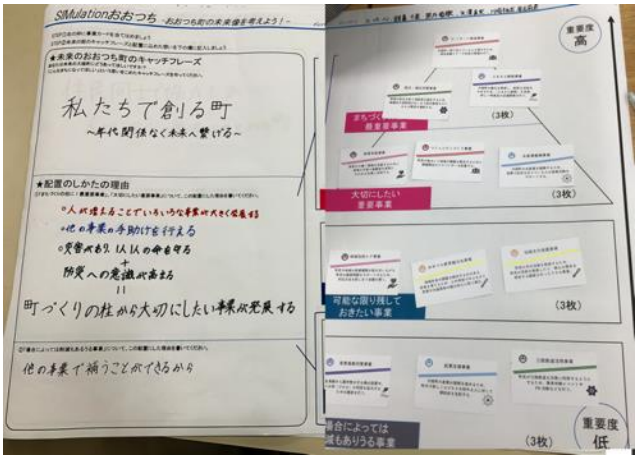
・40 分間のヒアリングは初め不安だったが、担当者の方がすごく熱心に教えてくれたので、あっというまに時間が過ぎ、用意した質問を全部言うことが出来ないくらいだった。本気で取り組んでいる人は自分たち地域に住んでいる人達も気づけないいところもすごい努力をしていることが何より一番大事だと学んだ。一人一人が協力して同じく情熱を持って現実から目をそらさず考え抜かない限り、町の大きな発展は難しいのではないかと思った。

・学生としての目線でなく、学務課の方から、ご職業の目線からお話を聞けて、大槌ならではの教育方針や事業を知ることができて良い機会になった。現実的な課題から目を背けず

真っ直ぐに向き合うことが大切だと感じた。また、マイプロで学んだように、高校生が町を変えられることが出来るということを常に感じながら話を聞いてみたら、より自分事として捉えられた。

㋑事業の優先順位決め＆未来のまちのキャッチフレーズ考案

６人のグループになって各事業の必要性についてディスカッションを行い、10 年後のまちを考えたときに優先度が高いものを考えた。優先度に応じてピラミッド形の枠にカードを配置し、優先順位を決めた後には、こうあってほしい未来の町を表すキャッチフレーズを考案した。



㋒町外の取り組み視察（三陸復興ラーニングジャーニー）

SIM おおつちの一環として位置付けて実施した。最終的に町への提案アイデアを考えるにあたり、三陸沿岸の他自治体における課題解決を視察し、大槌町に活かせることを考えることをめざした。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、訪問する自治体を岩手県内の３市町村（宮古市・陸前高田市・山田町）に設定した。

◆訪問先

	地域	班	ジャンル	時間	訪問先	事業内容
1	陸前高田市 ●コーディネーター NPO 法人 SET 上田彩果氏	A	教育	午前	NPO 法人 SET （教育事業）	成人対象の生涯教育事業 「フォルケホイスコーレ」
			地域産品	午後	CAMOCY	「発酵」をコンセプトにした商業施設 CAMOCY の創業
		B	地域交通	午前	東北株式会社	電気自動車を活用したレンタカーサービス
			移住定住	午後	NPO 法人 SET （民泊事業）	移住定住体験ツアー提供

	宮古市 ●コーディネーター NPO 法人 みやっこベース 早川輝氏	A	水産業	午前	株式会社隆勝丸	海産物（カキ・ウニ等）のネット販売、遊漁船業
			地域交通	午後	三陸鉄道株式会社	公共交通サービス（電車）の提供利用促進に向けた各種企画
		B	観光	午前	ゲストハウス 3710	宿泊サービスによる中心市街地へのアクセス改善
			水産業	午後	共和水産株式会社	海産物のネット販売による販路拡大、セルフブランディング
3	山田町 ●コーディネーター 山田町教育委員会 箱山智美氏	A	教育	午前	鯨と海の科学館	博物館施設の復興と活用
			地域	午後	ふれあいセンター はぴね	子供たちの提案による図書館機能を有する公共施設の運営
		B	産業振興	午前	びはんオール店/ 山田町水産商工課	商業の再生となりわい施設の設立
			地域産品	午後	やまだワンダフル 体験ビューロー	地「アカザラ貝」のブランド化に取り組む漁師訪問、漁業体験

グループごとにバスに乗って現地へ行き、１日を通して各地域の復興に向けた課題解決の取り組みを視察した。現地ではコーディネーターの案内のもと、午前と午後で２つの事業所を訪問し話を聞いた。まち歩きや体験活動等を行うことで、体系的に復興の過程や各地域の新しい取り組みを知ることができた。

◆生徒の感想

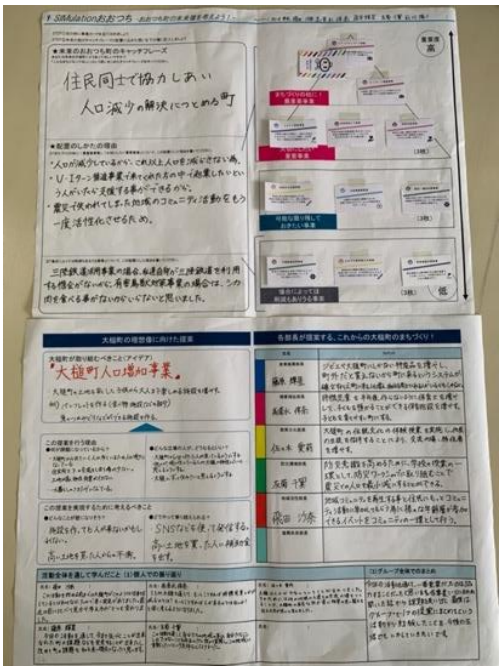
・課題を解決するにあたってその課題と一見関係ないようなものを組み合わせることによって、その課題を解決できる時もあるということです。また、「これをしなければいけない」、「これをしたい」、「これをしてあげたい」、とただ難しく考えるだけではなく、それとセットでこれをしたら楽しいのではないか、これをやったら面白いのではないか、という楽しいと思うこととセットして考えていけば答えが見えてくるということを新しく学ぶことが出来ました。

・ＳＥＴの方が言っていた、『人口減少をポジティブに捉える、人口減少はある意味一人ひとりの存在価値や影響が高まり、「できること」が増えていくことでもある。』と言っていたのがとてもこころに残りました。人口が少なくなっているということが広田町と大槌町が似ている部分だと思いました。だから広田町と同じように人口が少なくなっていることをポジティブに捉えて、大槌町でも民泊をやったりするなどの取り組みをしていった方がいいと思いました。

・誰かのせいにして面倒くさいことから逃げるのが、人間の悪いところ。だから、面倒くさがり、誰かのせいにして逃げるんじゃなくて自分のもつ力を最大限に生かして、それを解決するのが生きていくために、必要なことだと共和水産のイカ王子に熱く語って頂きました。ありがとうございました。

㊦ポスターセッション

事業調べや本プレイ、役場フィールドワークなどを通して得た学びを、グループごとにまとめる作業を行なった。最も重要だと考える事業とその順番、削減しても良いと考えた理由、どのような町をつくるべきかなどを議論して、ポスターに記載した。また、発表会に向けて自分の意見をしっかり発表できるよう練習を重ねた。



㋖「大槌町の未来像を考える」発表会

SIM おおつちの一環として実施した、町役場へのヒアリング、理想のまちのキャッチフレーズ考案、町外地域への視察活動のまとめとして、大槌町が取り組むべき事業の提案をポスターにまとめ発表した。

日　時：令和３月２日 16 日（火）１、２、３校時

場　所：大槌町役場３階

テーマ：「大槌町の未来像とそれに向けた提案を発表する」

SIM 本プレイや役場ヒアリング、ラーニングジャーニーを通して考えた「こうありたい町の未来像」と、それに向けた提案をグループごとにポスターにまとめて 15 分程度で発表した。発表会では、大槌町議会議員や大槌町役場の各課課長が参観し、生徒に質問をしたり感想を述べていただいたりした

◆参観者からの感想

・気づき、視点はそれぞれすばらしいものであった。今後の大槌の発展のために必要なテーマが多かった。今後、これらのテーマについてさらに深掘りしていけば、もっと現実的な取り組みになると思う。

・育ったまちだからこそ、改めてじっくり見つめ直さないと魅力には気づけないものなのだと思います。SIM おおつちの活動を通して学んだことを、ひとりひとりが明確に話していたことがよかったです。今後、高校生目線のまちづくりに対するアイデアをたくさんいただきたいと思いました。

・大槌町の未来について真剣に考えている姿に感銘を受けました。役場の人が頑張っているから大槌はすばらしい町という内容の発表がありましたが、大槌町の将来を本気で考えてくれるみなさんがいるから大槌はすばらしいのです。役場職員はそのお手伝いをしているに過ぎないのです。これからも一緒に大槌の発展のために頑張っていきましょう。

◆生徒からの感想

・この活動がはじまる時と全く違う考えになった。町長や議員の人達がどんな気持ちで大槌を変えていこうとしているのか知ったことで、様々な事が僕の中で大きく変わった。最初は、なんで僕らみたいな高校生の意見を聞きたいのかよく分からなかった。けれど活動していくうちに、自分はこう思っている＋他の人の意見も聞くことで考えの幅を広げたりできることを知った。

・議員の方々に話してみて、最初は高校生が提案しても聞いて終わりになるのではとか考えていたけど、今回話してみて、議会の方でも取り上げて話を進めてみるとか、どんなものがあったら大槌に帰ってきたいのか等質問もしてくれて、ちゃんと意見を聞いてくれてくれるんだなと感じたし、嬉しくなりました。議員さんが「自らを知る」ことが大切ということをお話してくださったので、大槌のことを改めて考える必要があるなと思いました。

・自分の考えがあまかったということに気付かされた。提案というのは、「これをやりたい」という気持ちをただ伝えるだけでなく、細かいところまで掘り下げ、より強い気持ちや考えを伝えることであることを知った。まだまだ知識が足りていないと感じたので、これからの授業で知識をより深めていきたい。

⑤「２年生マイプロジェクト発表会見学」

次年度に向けて２年生が１年間かけて取り組んできたマイプロジェクトの成果発表を１年生が見学した。来年度の活動をイメージしながら２年生に積極的に質問をする様子が見られ、次年度への意欲づけの機会となった。

◆生徒の感想

・発表された先輩方が、プロジェクトを通してその問いや物事に詳しくなっていた、と言っていたのがすごいと思いました。今後先輩方がそのプロジェクトの結果を色々なことで役立てられるのではないかと思いました。来年の自分のマイプロに向けて今日の聞いた発表を役立てて作ってみたいと思いました。また作った自分のマイプロをその後の取り組む物事に取り入れていければいいなと感じました。

・気づいたことは些細なことからプロジェクトに発展して大槌になにか生かせる事が出来ると思いました。学んだことは自分の身体を使ってプロジェクトをして説得力が増すことを知ったので２年生のプロジェクトでは参考にして行きたいです。

・自分のやりたいことや、興味を持っていることをプレゼンにするのは意外と簡単そうで、本当は難しいことなんだなぁと感じました。1 年かけてプレゼンを作るのは本当に大変だし、苦しいって思うこともあると思いましたが、それを感じさせないような発表会でした！とても勉強になりました！

（3） 2年生「テーマを探究するマイプロジェクト」

２年生では、生徒各自が興味関心から取り組みたいテーマを設定し、問いを立てながら検証アクションを繰り返していく「マイプロジェクト」に取り組んだ。

４、５月は、自分の興味や身の回りの気になることを模索しながら、個人またはグループでテーマを設定した。６月からは各自のテーマに関する問いを立て、地域の方の協力を得ながら検証アクションを実行した。

８月以降は、生徒や教員が４つのゼミに分かれて、個々で進めるプロジェクトを共有・相談するチームをつくりながら授業を展開した。また、オンライン探究交流にて、他県の高校２年生とオンラインツールを活用しながらお互いの探究の進捗状況を共有した。10 月に中間発表会、２月に最終発表会を実施した。プロジェクト活動の指導にはコラボ・スクールのスタッフ５名にも参加していただいた。

１年間を通した授業の流れは以下の通りである。

① テーマ設定（４月～５月）

◆心が動くテーマを探そう

・自分の過去の経験から印象に残った出来事を振り返ったり、新聞や広報誌を見て気になる記事を探したりしながら、テーマに繋がりそうなキーワードを書き出した。

・やりたいことリスト 50 を作成して、やってみたいことを書き出した。

◆テーマの共有・設定

・上記の活動から自分のテーマとしたいキーワードを３つ書き出し、生徒同士で共有した。

・キーワードをもとに、個人またはグループでテーマを設定した。

② マイプロジェクトの問いⅠ（６月～７月）

◆“常識を疑う問い”から、「ちょこっとマイプロ」を実行しよう

・「本当に（テーマ）は○○なのか？」という“常識を疑う問い”を設定した。

・“常識を疑う問い”を検証するために、１週間で実行できるアクションを計画した。

・次の授業までの１週間を使い、各自が計画したアクションを実行した。

【生徒から出てきた問い】

・本当にアイヌ料理は美味しいのか？

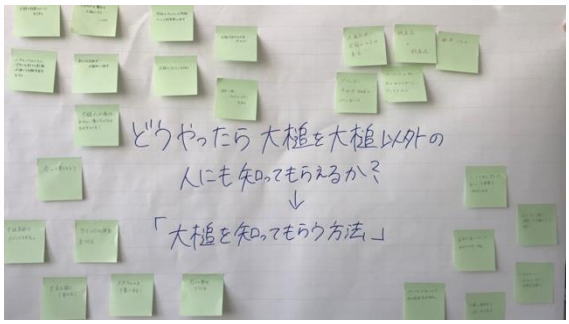
・本当にシャッタースピードを速くすると綺麗な写真が撮れるのか？

・本当に“香り”で人は癒されるのか？　・本当に泥水から飲み水を作れるのか？

◆“アイデアを広げる問い”から、プロジェクトの未来を考えよう

・「どうしたら（テーマ）は○○できるのか？」という“アイデアを広げる問い”を設定した。

・ブレストカードを使い、問いに対するアイデアをグループで出し合った。



◆マイプロジェクト・ブラッシュアップデイ（７月１日）

・各自の探究活動を進めていくにあたり、各テーマに精通した社会人等と出会うことを目的として、校内を会場に「マイプロジェクト・ブラッシュアップデイ」を実施した。・生徒のテーマに関連する町内外の社会人・大学生を招き、各自がプロジェクトの進め方や今後のアイデアなどについて相談にのっていただいた。

【テーマ・講師一覧】

	テーマ	講師名（所属）★はオンライン参加
1	地域振興	岡本 克美 氏（大槌町役場産業振興課長）
2	地域と観光	平賀 聡 氏（大槌町観光交流協会） 小國 夢夏 氏（大槌高校卒業生・大槌町観光交流協会）
3	ゲーム	三原 脩平 氏（ゲーム会社勤務）★
4	教育	八重樫 英広 氏（大槌町教育委員会指導主事） 菊池 大志 氏（大槌高校卒業生・大槌町教育委員会学務課）
5	子ども	神谷 未生 氏（おらが大槌夢広場） 南 啓美 氏（おらが大槌夢広場）
6	地域と音楽	臺 隆明 氏（槌音プロジェクト）
7	楽器演奏	内金崎 大祐 氏（内金崎自転車商会）
8	生き物	青山 潤 氏（東京大学大気海洋研究所） 森 誠一 氏（岐阜協立大学教授）★
9	民俗学	吉村 健司 氏（東京大学大気海洋研究所）
10	防災	箱山 智美 氏（山田町教育委員会教育次長）
11	健康・運動	佐藤 陸 氏（King8）
12	広報・発信	福留 庸友 氏（新聞社勤務カメラマン）★
13	その他①	藤沢 慶子 氏（大槌町出身・大学生）★
14	その他②	高木 桜子 氏（大槌高校卒業生・大学生）★
15	その他③	末本 晴香 氏（NPO カタリバ インターン生）★ 上地 周 氏（NPO カタリバ インターン生）★

◆マイプロジェクトの問いⅠまとめシートの作成（７月）

・テーマ設定の理由やこれまでの活動について、Ａ３用紙２枚のポスター形式でまとめた。

・ポスター作成にあたって PowerPoint を使用し、スライドの作成方法を学んだ。

③ マイプロジェクトの問いⅡ（８月～１０月）

◆ゼミ活動

・夏休み明け以降は、授業時間等を使い各自で探究活動を進める体制に入った。町内でのフィールドワークや、PC・タブレットを使って調べ学習やオンラインインタビューを行うなど、授業時間を活用しながら活動を進める姿が見られた。

・生徒のテーマや教員の専門分野をもとに４つのゼミをつくり、ゼミごとに各自の探究活動の進め方を相談し、定期的に生徒同士が互いの進捗状況を共有した。

◆第１回オンライン探究交流会（９月１６日）

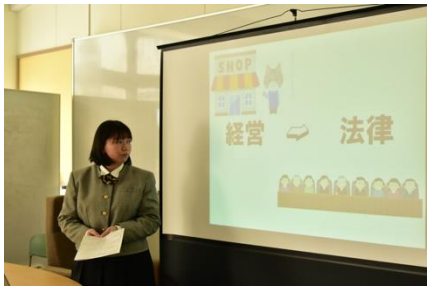
・３校がオンライン上に集まり、互いの探究活動を共有しながら学びを深めていく「オンライン探究交流会」を実施した。本校の２年生４２名と、山形県立小国高等学校２年生 21 名、熊本県立小国高等学校２年生 54 名が参加し、オンラインビデオ通話を活用して交流した。

・１回目の交流会では、オンラインツールの活用方法を学ぶと同時に、各校の紹介や生徒同士のアイスブレイクなどを行った。

◆マイプロジェクトの問いⅡ（中間）発表会（１０月１４日）

・個人・グループ合わせて３５プロジェクトが、半年間実施してきた活動の進捗とそこから得た学びについてプレゼンテーション形式で発表した。

・プロジェクトに関わっていただいた地域の方々にも発表を見学していただいた。



④ マイプロジェクトの問いⅢ・まとめ（１１月～２月）

◆第２回オンライン探究交流会（１２月４日）

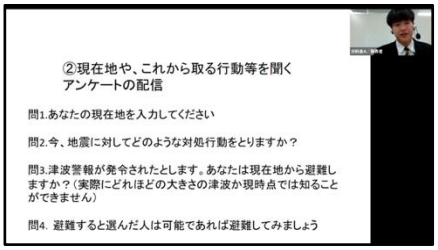
・９月の１回目の交流会に引き続き、２回目のオンライン交流会を実施した。

・３校の生徒が集まった小グループをつくり、これまで実施してきた活動について各自が５分間で発表した。お互いの活動に対してフィードバックをし合うことで、自分自身の活動を振り返り、今後の進め方を模索する機会となった。

◆活動の振り返り・まとめ（１月）
・11 月以降も、引き続きゼミごとに分かれて生徒が各自で探究活動を進めていった。
・冬休み明けの１月以降は、ワークシートを活用しながら、これまで立てた問いやその検証アクションを整理するとともに、活動を通して得た学びについて振り返る機会をとった。

◆最終発表会（２月 15 日（月）午前）
・個人・グループ合わせて 35 プロジェクトが、１年間の探究活動の成果と学びについて発表した。
・１年生が発表を見学し、次年度以降の活動をイメージする機会となった。

◆三陸みらい探究発表会（２月 15 日（月）午後）
・生徒の探究活動の取り組みを校外の幅広い方々に伝えることを目的に、「三陸みらい探究発表会」をオンライン開催した。「全国高校生マイプロジェクトアワード 2020」に出場した２学年の９プロジェクトが代表で発表した。
・約 60 組約 300 人の申し込みがあり、県内からは岩泉高校、伊保内高校、雫石高校などの生徒や教員に参加いただいた。



⑤ プロジェクト実践事例

◆テーマ・活動内容一覧

通番	テーマ	発表タイトル	活動内容
1	医療	知ってほしい！医療への関わり方	町内の医師に協力を得ながら患者のケースを作成し１人の患者に対してどのような医療職の携わりがあるのかをまとめた。
2	地域コミュニティ	おじいちゃん、おばあちゃんと子供の交流	上町地区のコミュニティ活性に向けて、多世代交流イベントを企画・実施した。
3	減塩食料理	高血圧対策！減塩食プロジェクト！	県内で大槌町が最も高血圧の人が多いという課題から減塩を意識した郷土料理のレシピを検討した。

4	野菜栽培	野菜栽培プロジェクト	農業に対する興味から、家庭での野菜栽培に挑戦した。
5	歴史・観光	大槌の歴史	大槌町の文化や歴史について専門家にヒアリングをしながら調査を進めた。
6	動物×法律	動物×法律	動物や生き物を保護する法律について調査し、動物の生息域を守る観点から環境整備や土地開発のあり方を考えた。
7	防災	命を繋ぐ防災	東日本大震災時の鵜住居小学校と大川小学校の避難の違いから命を守ることができる防災訓練に必要な要素について考察した。
8	動画制作・PR	大槌魅力発信～さんぽのような暮らし～	大槌の景色が好きという想いから大槌町の様々な魅力を伝えるPR動画を制作した。
9	子どもの遊び	あそび	将来保育士になりたいという夢から子供向けの遊びイベントを企画・実施し、子供ができるだけのびのびと遊べる環境をつくれるのか模索した。
10	音楽	どうやったら多くの人に音楽を楽しんでもらえるのか	大槌高校の校歌を在校生や卒業生と歌う活動を通して、音楽を楽しむために必要な要素について考察した。
11	土砂災害	減シカプロジェクト	シカの増殖が土砂災害の原因のひとつとなっていることから、今後10年間で増えると予測されるシカの数を計算し、その対策方法について検討した。
12	物事への興味関心	物事に興味を持つには？	身近な人に対する調査を通して、興味を持つために必要な要素について多角的に分析した。
13	ピアノ	初心者はピアノで1曲弾ききれるのか	全くのピアノ初心者が練習を重ねることで、好きな曲を弾ききることができるか挑戦した。
14	防災	防災	自治会長などから過去の災害での課題となったことをヒアリングし、災害時に地域でどのような動きをすべきかとまとめた。
15	虎舞	高校生だけで虎舞をするプロジェクト	新型コロナの影響で郷土芸能の発表が失われたという課題から、高校生での虎舞発表を提案した。
16	イトヨ	イトヨ	天然記念物のイトヨが生息する源水川の環境や水質について調査した。
17	刺繍	刺繍	マスクや小物への刺繍や子供服の制作に挑戦した。

18	視力アップ	視力をあげるぜ！プロジェクト	視力が回復するための様々な手段を試し、本当に視力が回復することがあるのかを検証した。
19	アイヌ民族	アイヌ民族について詳しくなろう	アイヌ料理やアイヌ民族伝統の文様などを調査し、アイヌ文化への理解を深めた。
20	ゲーム	初心者向けのゲーム	初心者向けのゲームを調査し、普段ゲームをしない人にもゲームを楽しんでもらうことに挑戦した。
21	子どもの遊び	子どもに必要な「素材」	自然や身近にある物から遊びを考えるイベントを開催し、震災後にできた小さな公園でも子供たちがのびのびと遊べる方法を模索した。
22	写真・カメラ	大槌町フィルム	趣味である「写真」が持つ力を活かし、地域で活躍する人々の姿をリレー形式で撮影してまとめた。
23	筋トレ	痩せようプロジェクト	食事制限や運動量を増やすことを実践し、体重を落とすことに挑戦した。
24	アニメ・音楽	芸術探求プロジェクト	得意のイラストを活かしたショートアニメーションやグッズを制作した。
25	保育	保育士さんの気持ちを考えるプロジェクト	保育士の役割について現役の保育士にヒアリングを行い、入園・卒園に向けた壁飾りを制作した。
26	ギター	ギター探求プロジェクト	趣味のギターを活かして他者とのセッションに挑戦した。
27	筋トレ	100 キロのでぶがダイエットしたら何キロやせるのか	筋トレや食事制限など様々なダイエット方法を試し、20 キロの減量に成功した。
28	水質調査	水プロジェクト	大槌町の湧水や釜石市で生産されている水について調べ、その違いや活用方法についてまとめた。
29	自転車×旅	大槌チャリ旅プロジェクト	大槌町内の観光スポットや景色を楽しんでもらうために、サイクリングで観光できるコースを考案した。
30	花→保育	好きなものが未来に繋がる	ブライダルや保育など自分の興味のある職業に関連する活動を行う中で、自分自身の進路について模索した。
31	こども食堂	納豆の糸 part2	町内の子ども食堂を地域の方々と一緒に運営し、町の子供たちが抱える課題と地域の居場所づくりのあり方について考察した。

32	サバイバル	24時間サバイバル生活	山田町のオランダ島でサバイバルキャンプを実施し、ライフラインが断たれた状態でも丸 1 日生き延びることができる方法を模索した。
33	ゲーム	高難易度ゲーム攻略	クリアするのが難しいと言われているゲームの攻略方法を模索した。
34	名字	名字の由来	大槌町で珍しい苗字の種類やそのルーツについて、町内の方々にヒアリングをしながら調査した。
35	ボードゲーム	ボードゲームで明るい空間を	オリジナルボードゲームを制作し、それらを体験をしてもらうことで、ボードゲームにはどのような効果があるのかについて考察した。

《事例①「納豆の糸 part2」》

毎月２回、町内で行われている子ども食堂を地域の方々と運営し、同世代の中高生が来たくなるようなメニューや宣伝方法を工夫した。また、地域で子ども食堂を行う意義について考えることで、子供たちにとって居心地の良い居場所づくりのあり方を考察した。

《事例②「命を繋ぐ防災」》

東日本大震災時の釜石市立鵜住居小学校と石巻市立大川小学校の避難方法の違いから、命を守ることができる防災訓練に必要な要素について考察した。校内で全校生徒を対象とした避難訓練に関するワークショップを行い、下校時に災害が起こったときにどのような対応をとるかを調査するアンケートを実施した。

《事例③「子供に必要な『素材』」》

震災後にできた公園に遊具がないことや広さが十分でないことに課題意識を持ち、子供たちが公園以外でものびのびと遊べる方法を模索した。町内の子供たちを集めて、散歩をしながら自然の中から遊べるものを見つけたり、身近にある物から遊びを考えるイベントを開催した。

◆生徒の感想

・マイプロジェクトを通して、物事を慎重に考えることができるようになりました。１回の検証で終わりにしてしまうのではなく、「本当にこの答えは合っているのか」という疑問を

持ち、その答えを確かめるためにたくさんのアクションを行いました。途中で諦めそうになることもありましたが、アクションを続けたお陰で自分が出した答えに自信を持つことができました。

・マイプロジェクトを通して、前向きに取り組む姿勢と積極性を身に付けることができ、この力は社会に出た時も役立つと思います。自分だけでは実現が難しいと思っていることも、大人の方々に相談したり協力を得たりすることで実現できるということが分かりました。

・活動を通して町内のいろいろなところに足を運ぶうちに、自分自身も知らない大槌町の魅力に気づくことができました。また、私のプロジェクトに多くの人が協力してくれて、自分が周りや町の人に支えられているということを改めて気付きました。

・プロジェクトを始める前は人前で話すことがとても苦手でしたが、何回も自分の活動を発表することで、人前で話すことに抵抗がなくなりました。また、質問や意見をもらってもすぐに対応できる力が身についたと思います。

（４） ３年生「進路につなげる＝18 年間で身につけたハンマー！＝」

３年生では、前期（４月～６月）、後期（11 月～２月）に分けて実施した。前期では、これまでに取り組んできた学習をそれぞれの希望進路へ接続することを目標に、希望する業種に自身の強みがどう活かせるかを示すプレゼンテーションや、関心のある進路に向けた探究学習をコース別に実施した。後期では 18 年間の学びの集大成として、自身がこれまでの人生で得た力や学びを自分の言葉で語る活動を実施した。

１年間を通した授業の流れは以下の通りである。

◆教養コース：「2040 年の職業と私」

関心ある業種の 20 年後の姿を考えたうえで、その業種へ自身の長所をどう生かしていきたいかを発表するプレゼンテーションを作成した。

◆文理コース：「進路実現マイプロジェクト」

進学を考えている分野についてテーマを設定し、課題解決に向けた実践や専門家へのヒアリングを行いながら探究を行った。

《探究活動例》

・「おじいちゃんの well-being」

栄養系の大学に進学希望を持っている生徒による活動。食事と well-being（幸福）の関係について問いを立て、糖尿病を患っている祖父が満足感を感じられる食事メニューを栄養士にアドバイスをもらいながら考案した。

◆コース共通：「あなたの大槌はきっと誰かの役に立つ！」

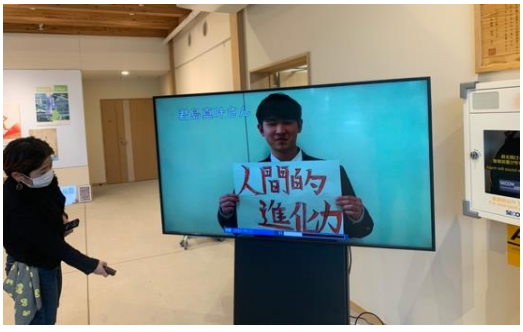
学校コンセプトである「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」になぞらえ、18 年間で身につけた「大槌（ハンマー）＝強み」を「身につけた〇〇力」、「発見した知見としてプレゼンテーション」にまとめる活動を行った。発表は動画におさめ、地域の文化交流施設やローカルテレビでの発信を行った。

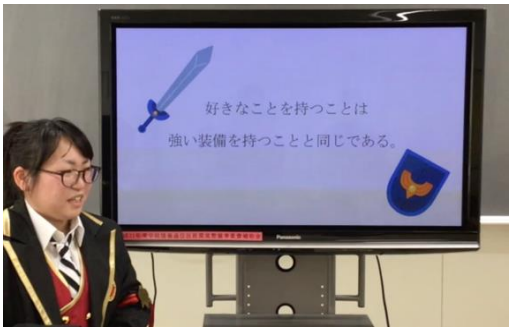
・オープンダイアログによる自己理解・他者理解活動

発表の内容を考えるにあたり、18 年間で身につけた力について対話を通して確認する時間を設けた。４人～５人グループになり、対象者を１人決めて残りの３～４人で対象者の長所やこれまでの変化・成長について議論をするというものである。自己理解だけではなく、他者からの視点で自分にどのような強みがあるのかを理解するために実施した。

◆発表会

３分～５分のプレゼンテーションにまとめ、校内発表を行った。新型コロナウイルス感染症に関わる諸般の事情を鑑みて、地域への公開による発表の代替として、動画におさめた発表を地域の文化交流施設とローカルテレビで発信した。





◆生徒の感想

・大槌でいろいろなことを乗り越えてきたんだと気づくことができ、今後も希望を持って生活していけると自信を持つことができた気がします。全体を通して、この探究の時間がなかったら気づくことができなかったこと、学ぶことができなかったことをたくさん得ることができ良かったです。本当にありがとうございました。

・自分の感性や視点、趣味や特技を活かせるとても楽しい授業だったなと思います！
高校生活最後で爪痕を残すというか、やりたい事がやれてよかったです！！これからも自分の個性を磨いていきたいです！ありがとうございました！

・この活動のおかげでほんとに自分の潜在能力を引き出すことが出来たと思う。今までやってきた活動自分の財産になるので将来必ず役に立つと思った！初めはなんのためにやっているのか？とか疑問に思いながらやっていたけど、３年生になってやっとマイプロや自分を見つめ直す大切さがわかった。だから今後悔していることは初めからもっと中身の深い内容の活動をやっておけばよかったと思っている。だから今の１、２年生にはマイプロの楽しさをもっともっと知って欲しいと思った！

3　目標の進捗状況，成果，評価

（1） 資質・能力調査について

◆調査概要

本校ではすべての教育活動を通し、「大槌高校魅力化構想骨子」で設定した目指す人物像の３つの柱である「自立」「協働」「創造」を育んでいく。令和２年度より目指す人物像について９つの資質・能力の育成指標を設定し、年２回（５月・２月）の４件法アンケートにより調査を行っている（アンケート項目は【表 2】参照)。

		資質・能力	内容
自立	1	ジブンゴト	三陸地域の復興や自身の未来に向けた意志をもつ
	2	課題設定	問題解決のために取り組むべき課題を明らかにする
	3	自己調整	学習の過程や結果をもとに、学び方を自律的に調整する
協働	4	共感・相互理解	価値観や意見の違いをみとめ、受け入れる
	5	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む
	6	リーダーシップ	他者に対して前向きに働きかけ動かす
創造	7	レジリエンス	困難な状況でもプラスに考えて乗り越える
	8	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす
	9	チャレンジ	失敗をおそれず積極的に物事に取り組む

◆調査結果

令和２年５月に第１回目、令和３年２月に第２回目の調査を実施し、比較検討を行った。

第１回、第２回をあわせたデータを【表１】【表２】に示す。

【表１】アンケート結果：資質・能力別集計（５月―２月比較）

※A列～F列：４件法における平均値（５月調査，２月調査）

※G列～I列：５月調査を基準としたときの２月調査時の増加率

	G (A/B)	H (C/D)	I (E/F)	A 5月	B 2月	C 5月	D 2月	E 5月	F 2月
	1学年	2学年	3学年	1学年	1学年	2学年	2学年	3学年	3学年
ジブンゴト	97%	101%	105%	3.02	3.12	3.08	2.94	3.33	3.34
課題設定	94%	100%	107%	2.97	3.15	3.13	2.92	3.31	3.21
自己調整	101%	96%	101%	2.69	2.66	2.78	2.76	3.21	3.04
共感相互理解	100%	109%	96%	3.33	3.32	3.05	3.18	3.61	3.47
OneTeam	102%	99%	99%	2.87	2.80	2.82	2.85	3.31	3.11
リーダーシップ	99%	102%	99%	2.85	2.87	2.82	2.85	3.31	3.19
レジリエンス	97%	99%	102%	2.62	2.69	2.71	2.67	3.09	3.07
価値創造	99%	100%	104%	2.75	2.79	2.79	2.69	3.11	3.00
チャレンジ	95%	99%	96%	2.53	2.65	2.68	2.80	3.06	3.09
平均値	97%	101%	105%	2.85	2.89	2.87	2.85	3.26	3.17

【表２】アンケート結果：設問別集計（５月―２月比較）

4. そうである　3. どちらかといえばそうである　2. どちらかといえばそうではない　1.そうではない

			質問項目	G B/A 1年生	F D/C 2学年	H F/E 3学年	A 1年生 5月	B 1年生 2月	C 2年生 5月	D 2年生 2月	E 3年生 5月	F 3年生 2月	通番
自立（意志がある）	ジブンゴト	1	よりよい地域づくりのために自分から積極的に活動したいと思う	94%	108%	100%	3.06	2.88	2.74	2.95	3.12	3.12	1
		2	地域に対して貢献したいと思う	98%	103%	100%	3.09	3.04	2.95	3.05	3.29	3.30	2
		3	自分の将来を真剣に考えている	99%	99%	96%	3.28	3.24	3.14	3.13	3.67	3.52	3
		4	未来は自分で変えていけると思う	96%	109%	102%	3.04	2.92	2.93	3.20	3.29	3.36	4
				97%	105%	100%	3.12	3.02	2.94	3.08	3.34	3.33	
	課題設定	5	日頃から疑問や問題意識を持って生活している	94%	110%	102%	2.85	2.67	2.64	2.90	3.02	3.08	5
		6	理想と現実のギャップを認識できる	93%	105%	107%	3.45	3.20	3.14	3.30	3.42	3.67	6
		7	問題が起きたとき、解決までの手順を考えることができる	94%	108%	101%	3.04	2.86	2.76	2.98	3.12	3.14	7
		8	問題が起きたとき、原因をつきとめようとする	97%	107%	102%	3.25	3.14	3.12	3.35	3.27	3.34	8
				94%	107%	103%	3.15	2.97	2.92	3.13	3.21	3.31	
	自己調整	9	学習している内容を他の物事と結びつけて考える	98%	106%	109%	2.72	2.67	2.57	2.73	2.98	3.24	9
		10	自分に合った学習方法を探そうとする	102%	102%	109%	2.87	2.92	2.88	2.95	3.17	3.46	10
		11	最後まであきらめずに理解しようとする	100%	96%	98%	2.87	2.88	3.07	2.95	3.33	3.26	11
		12	計画を立ててから学習に取り組む	104%	99%	107%	2.19	2.29	2.50	2.48	2.67	2.86	12
				101%	101%	105%	2.66	2.69	2.76	2.78	3.04	3.21	
協働（仲間とともにある）	共感相互理解	13	相手の話を聞くときは、何を伝えたいのか考えながら聞く	100%	95%	103%	3.11	3.12	3.14	3.00	3.42	3.52	13
		14	常に相手の立場に立って理解しようとしている	102%	95%	106%	3.11	3.16	3.05	2.90	3.33	3.54	14
		15	頑張っている人を見ると応援したくなる	98%	96%	102%	3.62	3.55	3.38	3.25	3.65	3.72	15
		16	自分と違う意見も受けいれることができる	102%	97%	105%	3.42	3.47	3.14	3.05	3.48	3.64	16
				100%	96%	104%	3.32	3.33	3.18	3.05	3.47	3.61	
	One Team	17	集団の中で自分の役割を見つけることができる	105%	97%	109%	2.66	2.80	2.81	2.73	3.08	3.34	17
		18	相手の話を受けて質問をすることができる	93%	96%	103%	2.85	2.65	2.98	2.85	3.17	3.28	18
		19	周囲と良い関係をつくるために、行動や発言に気をつけている	104%	101%	103%	3.32	3.47	3.02	3.05	3.48	3.60	19
		20	自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる	107%	103%	112%	2.38	2.55	2.57	2.65	2.69	3.02	20
				102%	99%	107%	2.80	2.87	2.85	2.82	3.11	3.31	
	リーダシップ	21	安易に他人の意見に流されない	100%	99%	104%	2.89	2.90	2.79	2.75	3.06	3.18	21
		22	困難な状況でも前向きな発言をすることができる	98%	100%	106%	2.51	2.45	2.69	2.70	3.06	3.24	22
		23	互いの個性を尊重し協力することができる	98%	98%	102%	3.30	3.24	3.12	3.05	3.58	3.64	23
		24	目的を達成するために、相手を説得することができる	101%	99%	103%	2.77	2.80	2.81	2.78	3.08	3.16	24
				99%	99%	104%	2.87	2.85	2.85	2.82	3.19	3.31	
創造（逆境からつくり出す）	レジリエンス	25	難しい仕事を与えられても、そこに楽しさを見出せる	98%	101%	102%	2.74	2.67	2.64	2.68	3.15	3.22	25
		26	いまの苦労は将来役に立つと考えている	96%	98%	101%	3.25	3.12	3.05	3.00	3.33	3.36	26
		27	自分はプラス思考である	102%	102%	95%	2.26	2.31	2.52	2.58	2.94	2.80	27
		28	困難なときほど頑張れる	94%	106%	103%	2.53	2.39	2.45	2.59	2.87	2.96	28
				97%	102%	100%	2.69	2.62	2.67	2.71	3.07	3.09	
	価値創造	29	自分には発想力がある	92%	103%	100%	2.74	2.53	2.45	2.53	2.79	2.80	29
		30	自分なりの視点で物事を見ることができる	100%	110%	104%	3.13	3.12	2.81	3.10	3.35	3.48	30
		31	問題を解決するために創意工夫することが得意である	103%	101%	104%	2.38	2.45	2.60	2.63	2.77	2.88	31
		32	過去の経験を問題解決に活かすことができる	100%	100%	105%	2.91	2.90	2.90	2.90	3.10	3.26	32
				99%	104%	104%	2.79	2.75	2.69	2.79	3.00	3.11	
	チャレンジ	33	頑張れば道は開けると考えている	96%	90%	95%	3.08	2.96	3.12	2.80	3.37	3.20	33
		34	失敗を恐れず行動することができる	92%	100%	98%	2.40	2.20	2.60	2.60	2.90	2.86	34
		35	何事にも積極的に取り組むことができる	92%	98%	103%	2.55	2.35	2.74	2.68	3.00	3.08	35
		36	自ら行動して現状を変えようとする	100%	97%	99%	2.58	2.59	2.74	2.65	3.10	3.08	36
				95%	96%	99%	2.65	2.53	2.80	2.68	3.09	3.06	

◆考察

・１年生

１年生は「ジブンゴト」における地域貢献意識や「課題設定」にある理想と現実を把握する力などについて減少がみられた。１年生の地域協働の取り組みは、SIM おおつちを中心に、地域課題の分析や解決に向けた方策を考える活動が中心である。そういった活動を通して、課題の複雑さや解決の難しさを理解したことにより上記項目が減じた可能性があるものの、生徒が地域との関わりや課題解決について真剣に向き合い始めたことの表れであるといえる。その他減じた項目の多かった「レジリエンス」「チャレンジ」については、中学校までと比べて生活が多忙化し、学習内容も増加する環境へ適応する過程で、自己評価にマイナスの影響が出たと考えられる。一方、自分の意見をよりよく伝えることについては数値の上昇がみられており、探究活動の中で繰り返し行なった発表活動の中で自信を高めていることがうかがえる。

・２年生

２年生は「ジブンゴト」「課題設定」の上昇がみられており、地域に対する貢献意欲や、課題解決に向けた方策を組み立てる力の向上が特徴的である。２年生の中心的取り組みであるマイプロジェクト活動の中で、探究する「問い」を設定し、試行錯誤を繰り返しながら検証する過程で上記の資質・能力を成長させていると考えられる。さらに詳細に見ていくと、「価値創造」における独自の視点で物事を見ることや「課題設定」の日常的な課題意識に関する項目も上昇しており、「身近な気になることに自分なりの問いをもつ」というマイプロジェクトを通して生徒に伝えている探究の理念が浸透してきていることがうかがえる。一方で、他者との協働に関する「One Team」は数値の低下がみられた。今年度のプロジェクト活動は個人活動が中心であり、協働的な学習機会が少なかったためと考えられる。

・３年生

３年生は他者との協働に関する「One Team」の上昇が特徴的である。とくに集団の中で自分の役割を見つけたり、自己表現をよりよく行ったりすることへの自信が高まっていることが読み取れる。３年生での取り組みは、進路実現に向けた探究活動や、18 年間で身につけた力を個人でプレゼンテーションにまとめ発表する活動が中心であった。２年生でマイプロジェクトを通し多様なテーマを探究した土台の上で、３年生ではそれぞれの進路や将来と結びついた表現活動を行った。３年生の活動では、お互いの興味関心や長所について、発表や対話を通じて交流する機会が繰り返し設けられていた。それらを通し、個性の表現や尊重に関する資質・能力が高まったと考えられる。

（2）ルーブリックを活用した評価について

校内での探究活動の評価はルーブリックを活用して行っている。評価表を作成するにあたり、大槌高校魅力化構想において策定した人物像の柱「自立・協働・創造」をベースにして三陸みらい探究で育てたい資質・能力を６つ設定した。その上で、６つの資質・能力に関する具体的な評価項目を単元別に作成し、評価を行っている。

学習指導要領解説において示される「生徒に個人として育まれる良い点や進歩の状況などを積極的に評価することや、それを通して生徒自身も自分の良い点や進歩の状況に気づくようにすることも大切である」という指針に則り、項目別の段階評価にあわせ、文章によるコメントをあわせたものを生徒へ返却している。

【図２：ルーブリック評価表】

大槌高校 三陸みらい探究ルーブリック評価表

【三陸みらい探究で育成する資質・能力の設定】
・「大槌高校魅力化構想骨子」にて設定した目指す人物像をもとに、三陸みらい探究で育成する資質・能力を6つに細分化して設定する。
・それぞれの資質・能力を3段階でレベル分けし、それぞれ1～3学年終了時の目標状態として設定する。
・下記の表を活用した他者評価・自己評価を行い、資質・能力の成長を評価する。

育てたい人物像	資質・能力		内容	レベル1（1学年終了時の目標状態）	レベル2（2学年終了時の目標状態）	レベル3（3学年終了時の目標状態）
				高校生としての自覚	社会の一員としての自信	進路実現・社会人としての自立
自立（意志がある）	1	ジブンゴト	三陸地域の復興や自身の未来に向けた前向きな意志	三陸地域の復興や身の回りの出来事を自分に関係のあることと考え、自分の意見を持つことができる。	社会や未来を良くしようとする意欲を持ち、志を自信をもって語ることができる。	社会の一員として自覚をもち、よりよい未来にしようとする意志を持って進路選択ができる。
	2	課題設定	課題解決や自己実現のために、取り組むべき課題を明らかにする力	理想の姿と現状のギャップから問題を見つけ、取り組むべき課題を考えて実行できる。	解決策の実行を繰り返しながら、より重要な新しい課題を設定することができる。	課題設定を繰り返しながら培った力を生かし、これからの生き方や進路実現に結びつけることができる。
協働（仲間とともにある）	3	共感・相互理解	価値観や意見の違いをみとめ、前向きに受け容れる力	自分と異なる他者の意見や価値観を尊重し、受け入れることができる。	対立する意見や価値観を取り入れ、その背景を想像することができる。	意見や価値観の対立を社会規模で考え、社会全体がよりよくなるための考えを持つことができる。
	4	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力	自分の考えをはっきりと伝え、所属する集団の中で協力して活動することができる。	自分の意見や考えをわかりやすく発信し、身近な他者を巻き込んで活動することができる。	自分の考えを論理性と熱意をもって伝え、多様な立場の人の中で活動することができる。
創造（逆境から創り出す）	5	レジリエンス	困難な状況をプラスに考え、前向きに挑戦し続ける力	与えられた環境の中で、ひるまず前向きに物事に挑戦することができる。	全く新しい環境や、思い通りにいかない状況でも、物事に前向きに挑戦することができる。	困難な状況でも前向きに考えて、未知の環境へ飛び込むことを楽しむことができる。
	6	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力	すでにある事例を参考にしながら、課題の解決策を考えることができる。	集めた情報を活用して、自分なりの新しい視点やアイデアを持つことができる。	関心ある領域について学び、既存の枠組みにとらわれず考え、自分なりの価値を見出すことができる。

４　カリキュラムマネジメント学校設定教科「地域みらい学」について

大槌高校では地域と協働して取り組むリベラルアーツカリキュラム教科として「地域みらい学」を学校設定教科として設置するための検討を行った。令和３年度から実施していく。

（1） 本校で取り組む「リベラルアーツ教育」とは？

本校が取り組むリベラルアーツ教育とは教科の垣根を越えて知識を互いに関連づけ、統合し、広く知識の交流をすることを通して批判的な思考力と創造的な発想力の涵養を目指す教育である。こうした教育を行う理由は本校の存置する地域の特性が背景にある。本校の存置する地域には東日本大震災津波からの復興や人口減少などの解決の難しい課題が山積みである。そうした状況の中で、実際に起こっている地域や社会の抱える複雑な課題に自ら問いを立て、教科で学んだベーシックな学力を活かしながら、探究することのできる力を育むことができる教科として「地域みらい学」を設定した。

（2） 「地域みらい学」で大切にする４つの視点

地域みらい学では以下の４つの視点を持って進める。

1	主体性	生徒自らが問いを設定することのできる題材を選定し、学習者である生徒中心の授業を展開する。
2	地域性	地域が実際に直面している課題（オーセンティックな課題）に地域の方々と共に解決策を探りながら協働し、深く学ぶ。
3	横断性	各教科（５科目等）で得た知識を応用し探究的な学習を進め、行った学習を各教科の深い学びに発展させていく。
4	開放性	学びの成果物やプロセスを発表会や映像などを通して地域社会に広く発信する

（3） 設定する教科・科目の内容

大槌高校では総合的な探究の時間（三陸みらい探究）の他、令和３年度より学校設定科目５科目を立ち上げた。令和２年度には各教科が試行的に研究授業を行った。

	教科名	単位	設置目的	内容
1	ひょっこり表現島（国語）	2	地域言語を用い地域独特の表現を深く理解することにより、より多彩な「伝える力」「表現力」を育成する手立てとするため	地域の方言を題材として取り上げ、標準語との比較や地域における文語表現、口語表現に触れ、方言に関するプレゼンテーションを行う
2	まちづくり探究（公民）	2	地域社会における様々な課題（矛盾・葛藤・衝突）について、それぞれの主張の背景を理解しながら、解決の方向性を探る力を育成するため	身近な課題から、震災復興の課題、社会の課題を取り上げ、実際にフィールドワークに行ったり、講師による講演などを聞いたりすることを通して深める

3	くらしmath (数学)	2	身近な分野で活用されている数学を学ぶことにより数学のよさを認識し、暮らしの中にある課題を発見し解決しようとする態度を育成するため	身近な金融の仕組みや、地域の経済や商売に関すること、統計やデータに関することについての学習
4	おおつちラボ (理科)	3	既習した学習内容を関連付けながら深い理解の定着を目指し、仮説の設定や、実験・検証方法等を自ら模索し科学的課題への関心、理解を深めるため	身近な理科的・科学的現象、大槌町の資源である海洋に関すること、エネルギーに関する課題解決学習
5	Eパスポート (英語)	3	コミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰの学習内容を関連付けながら、テーマや場面を設定し発展的なコミュニケーション能力を育成するため	外国旅行、ホームステイ等に関する実践的な英語の活用や、大槌町の姉妹都市と連携した交流、町のPR動画作成等

参　考　資　料

【別紙様式5】

ふりがな	いわてけんりつおおつちこうとうがっこう	指定期間	2019～2021
学校名	岩手県立大槌高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業　目標設定シート

1．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（ 年度）
a	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） アンケート調査による、下記指標に関して、4件法において肯定的回答の割合 ・課題の発見と解決に必要な知識及び技能 ・探究の意義・価値理解、地域・社会との関わり合い ・課題発見・解決への指向 ・主体性・協働性 ・価値創造への提案と次へつながる学び						単位：%
	本事業対象生徒：			80	85	90	90（2021年度）
	本事業対象生徒以外：						
	目標設定の考え方：本事業の目標は三陸沿岸部地域のリーダー育成である。本事業を通じ、自ら進んで地域に働きかけることができる力を生徒全員に身につけて欲しい。						
b	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 卒業者の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合						単位：%
	本事業対象生徒：			60	65	70	70（2021年度）
	本事業対象生徒以外：	56	64				
	目標設定の考え方：震災前は県外就職率は48%と高い比率であった。震災以後県内就職者が増えているが、その率を更に高めたい。また、県内に進学した者が将来県内に就職することが考えられるので、県内進学者も加味して考えたい。						
c	（その他本構想における取組の達成目標）						
	本事業対象生徒：						
	本事業対象生徒以外：						

2．地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（ 年度）
a	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 外部から講師を招いて行う授業や講演会の回数。						単位：回
		19	18	21	24	27	30（2021年度）
	目標設定の考え方：これまで年間を通じ進路や保健衛生、金融、防災などの講演会を行ってきたが、本事業で地域の人材を活かした授業展開を日常的に行うため。						
b	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 生徒が外部団体へ本校の取り組みをプレゼンテーションする機会の回数。						単位：回
		11	11	12	13	14	15（2021年度）
	目標設定の考え方：復興研究会の他校交流班を中心に外部団体へ本校の取り組みを発表する機会が多いが、今後本事業を積極的に発表する機会を増やすことが望まれるため。						
c	（その他本構想における取組の具体的指標）						
	目標設定の考え方：						

３．地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（ 年度）
a	（地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 目標設定の考え方：大槌高校魅力化構想会議の年間の開催回数。					単位：回
		1	2	3	4	4
	目標設定の考え方：大槌高校魅力化構想会議は本事業のコンソーシアムの母体であり、運営指導委員会と連動するものである。この会議が年間、円滑に開催され事業への提言や内容の検討が行われることは活動の指標として適している。					
d	（その他本構想における取組の具体的指標）					
	目標設定の考え方：					

＜調査の概要について＞

1．生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）	209	190	159	146	145
本事業対象生徒数			42	95	145
本事業対象外生徒数			117	51	0

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム　組織診断ポートフォリオ

高校名	岩手県立大槌高等学校										
年度	2020年度										
回答者数	生徒・学生	146	（内訳）	1年生	53	2年生	42	3年生	51	4年生	0	5年生	0
	（昨年度）	92	（内訳）	1年生	42	2年生	50	3年生	0	4年生	0	5年生	0
	大人	31	（内訳）	教職員	20	（昨年度）		大人	26	（内訳）	教職員	12	

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

How to read　結果の読み取り方

このポートフォリオでは、以下の５側面、４領域、３軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- ５つの側面を　➡ 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤満足度」の５つから把握しています。
- ４つの領域から　➡ 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の４つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- ３つの軸で　➡ 上記のデータを「時間軸（前年度からの伸び）」「学年軸（学年による違い）」「地域軸（他地域との比較）」の３つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合（%）】　➡ 各項目で「４．あてはまる」「３．どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】　➡ 「あてはまらない＝１」～「あてはまる＝４」の回答の平均値
- 【他地域】　➡ 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】　➡ （個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示）前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

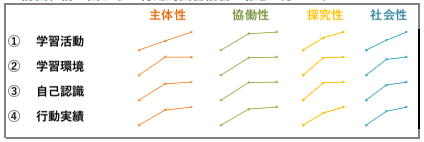
Summary　総括表

■今回の結果（まとめ）

	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	2	3	3	2
② 学習環境	3	3	4	3
③ 生徒の自己認識	3	3	2	2
④ 生徒の行動実績	3	3	2	2

※肯定的回答割合が50%未満=1,50~65%=2,65%~80%=3,80%以上=4

■前回、前々回からの肯定的回答割合の推移（まとめ）



※左から前々回、前回、今回。非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

■他地域と比べた強み・伸びしろ

	強み：他地域との差が最も（プラスに）大きい項目とその差		伸びしろ：他地域との差が最も（マイナスに）大きい項目とその差	
① 学習活動	86.3%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	47.3%	日本や世界の課題の解決方法について考える
② 学習環境	88.4%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	59.6%	地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
③ 生徒の自己認識	92.5%	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	41.8%	複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
④ 生徒の行動実績	71.2%	授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	41.1%	地域社会などでボランティア活動に参加した

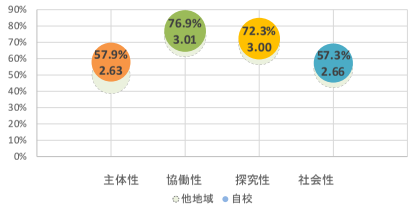
■総合的な生徒の満足度（⑤）

	満足度
生活全般の満足度（0~10で6以上）	56.2%
前回、前々回からの推移	
高校に対する満足度	84.9%
前回、前々回からの推移	

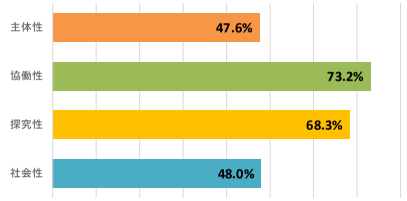
※非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

①学習活動（明示的なカリキュラム）

■今回の結果



■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）

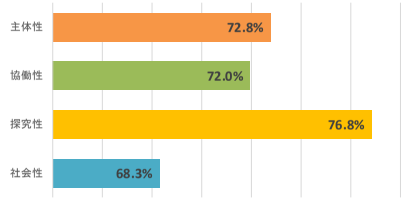


※上段の数値（%：縦軸）が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）

■今回の結果

■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）

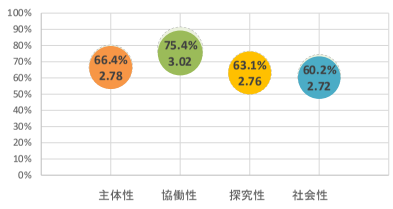


【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

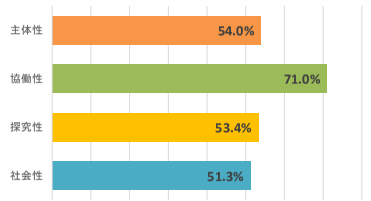
- 自校の強みや課題、それを増進／克服するための、協働のあり方は？
- 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ていそうか？
- 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か？

③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

■今回の結果

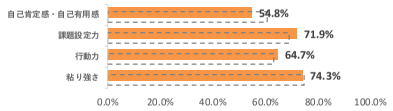


■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）

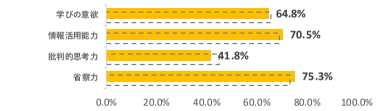


■今回の結果（詳細）

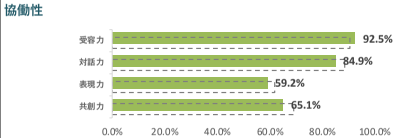
主体性



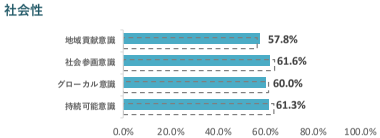
探究性



協働性



社会性



※点線は他地域における肯定的回答割合

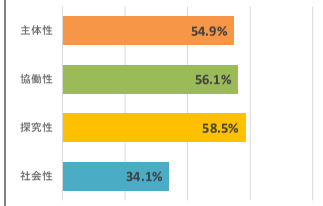
【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

- 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は？
- 前回からの変化は？その要因として、何が考えられそうか？（学習活動、学習環境と関連付けて）
- 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は？そのために必要な「次の一手」は？

④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）

■今回の結果

■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）

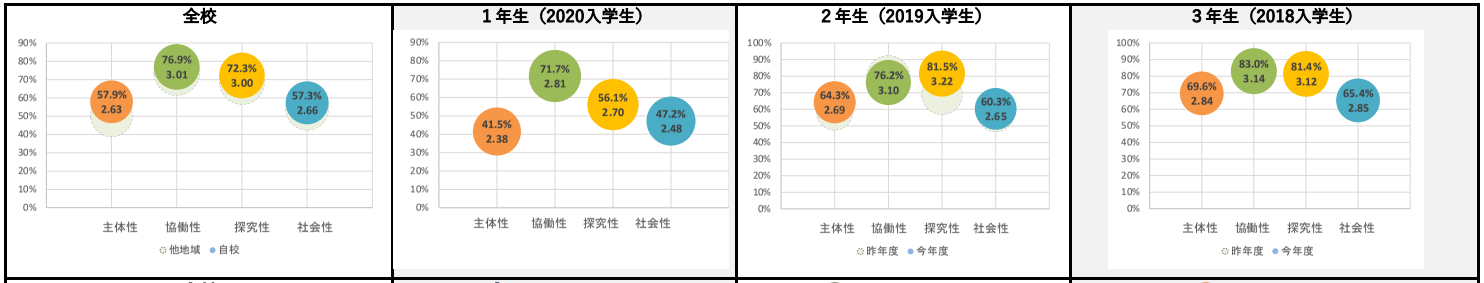


【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- 生徒に期待する具体的な行動は？
  生徒の自己認識との関連は？
- 具体的な行動を促すような、学習活動や
  学習環境づくりはできているか？

Details 詳細結果

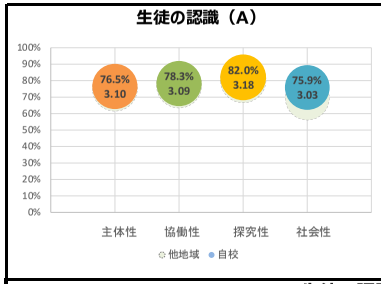
① 学習活動（明示的なカリキュラム）

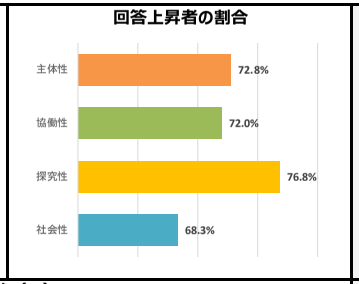


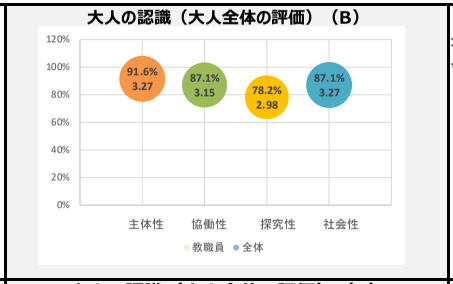
● 10pt以上の増加 ● 0～10ptの増加 ● 減少

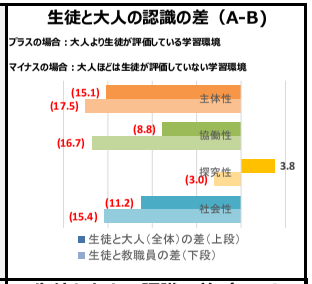
	全校				1年生（2020入学生）			2年生（2019入学生）			3年生（2018入学生）			
	全体		昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年～3年	回答上昇者
	割合(%)		差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	推移	割合(%)
主体性に関わる学習活動	**57.9%**		**28.88**	**7.69**	**41.5%**	**-16.82**	**-**	**64.3%**	**5.95**	**47.6%**	**69.6%**	**40.61**		**-**
5 自主的に調べものや取材を行う	67.8%		25.81	4.89	49.1%	-19.99	-	73.8%	4.76	61.0%	82.4%	40.35		-
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	47.9%		31.95	10.49	34.0%	-13.66	-	54.8%	7.14	34.1%	56.9%	40.86		-
協働性に関わる学習活動	**76.9%**		**6.94**	**3.04**	**71.7%**	**-7.67**	**-**	**76.2%**	**-3.17**	**73.2%**	**83.0%**	**13.01**		**-**
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	80.8%		0.82	-1.43	81.1%	-6.96	-	73.8%	-14.29	73.2%	86.3%	6.27		-
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	86.3%		0.30	1.08	79.2%	-4.09	-	88.1%	4.76	85.4%	92.2%	6.16		-
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	63.7%		19.70	9.48	54.7%	-11.95	-	66.7%	0.00	61.0%	70.6%	26.59		-
探究性に関わる学習活動	**72.3%**		**22.76**	**3.53**	**56.1%**	**-12.92**	**-**	**81.5%**	**12.50**	**68.3%**	**81.4%**	**31.87**		**-**
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	63.7%		17.70	0.55	45.3%	-16.62	-	76.2%	14.29	63.4%	72.5%	26.55		-
11 話し合った内容をまとめる	75.3%		9.34	-1.46	58.5%	-20.08	-	81.0%	2.38	70.7%	88.2%	22.24		-
12 活動、学習のまとめを発表する	74.0%		31.97	6.64	56.6%	-7.68	-	83.3%	19.05	68.3%	84.3%	42.31		-
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	76.0%		32.03	8.40	64.2%	-7.28	-	85.7%	14.29	70.7%	80.4%	36.39		-
社会性に関わる学習活動	**57.3%**		**25.97**	**3.28**	**47.2%**	**-10.77**	**-**	**60.3%**	**2.38**	**48.0%**	**65.4%**	**34.03**		**-**
14 地域の魅力や資源について考える	65.8%		33.75	10.66	60.4%	-3.91	-	66.7%	2.38	56.1%	70.6%	38.59		-
15 地域の課題の解決方法について考える	58.9%		26.90	3.05	45.3%	-11.86	-	64.3%	7.14	48.8%	68.6%	36.63		-
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	47.3%		17.26	-3.87	35.8%	-16.53	-	50.0%	-2.38	39.0%	56.9%	26.86		-

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）









● 10pt以上の増加　● 0～10ptの増加　● 減少

	生徒の認識（A）								大人の認識（大人全体の評価）（B）				生徒と大人の認識の差（A-B）	
	全体		昨年度との差	他地域との差	全体	学年別			全体	昨年度との差	うち教職員	昨年度との差	生徒と大人（全体）	生徒と教職員
	割合(%)		差(pt)	差(pt)	回答上昇者	1年生	2年生	3年生	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる学習環境	**76.5%**		**-0.87**	**1.35**	**72.8%**	**65.7%**	**80.6%**	**84.3%**	**91.6%**	**27.00**	**94.0%**	**20.67**	**-11.7pt**	**-14.1pt**
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	78.1%		2.00	0.30	73.2%	64.2%	81.0%	90.2%	90.3%	28.78	95.0%	36.67	-12.2pt	-16.9pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	88.4%		-4.04	-0.47	90.2%	77.4%	92.9%	96.1%	93.5%	24.32	95.0%	3.33	-5.2pt	-6.6pt
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	81.5%		-5.45	2.43	82.9%	69.8%	88.1%	88.2%	96.8%	31.39	95.0%	36.67	-15.3pt	-13.5pt
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	59.6%		-6.72	4.22	46.3%	52.8%	61.9%	64.7%	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	64.4%		8.95	1.47	58.5%	50.9%	69.0%	74.5%	83.9%	26.18	90.0%	31.67	-19.5pt	-25.6pt
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	87.0%		0.03	0.14	85.4%	79.2%	90.5%	92.2%	93.5%	24.32	95.0%	-5.00	-6.6pt	-8.0pt
協働性に関わる学習環境	**78.3%**		**4.07**	**1.14**	**72.0%**	**71.7%**	**78.0%**	**85.3%**	**87.1%**	**24.60**	**95.0%**	**17.92**	**-8.8pt**	**-16.7pt**
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	80.1%		10.57	4.53	75.6%	69.8%	83.3%	88.2%	80.6%	15.26	85.0%	1.67	-0.5pt	-4.9pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	74.0%		0.06	-5.04	61.0%	62.3%	71.4%	88.2%	87.1%	21.71	95.0%	20.00	-13.1pt	-21.0pt
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	84.2%		1.64	2.28	80.5%	81.1%	83.3%	88.2%	90.3%	36.48	100.0%	25.00	-6.1pt	-15.8pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	74.7%		4.01	2.78	70.7%	73.6%	73.8%	76.5%	90.3%	24.94	100.0%	25.00	-15.7pt	-25.3pt
探究性に関わる学習環境	**82.0%**		**4.03**	**1.58**	**76.8%**	**71.7%**	**84.5%**	**90.7%**	**78.2%**	**14.76**	**85.0%**	**10.00**	**3.8pt**	**-3.0pt**
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	80.8%		4.73	-1.57	70.7%	71.7%	83.3%	88.2%	67.7%	21.59	70.0%	20.00	13.1pt	10.8pt
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	82.2%		-0.42	0.90	68.3%	75.5%	83.3%	88.2%	80.6%	3.72	90.0%	6.67	1.5pt	-7.8pt
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	87.7%		5.06	3.25	90.2%	79.2%	85.7%	98.0%	93.5%	20.47	95.0%	3.33	-5.9pt	-7.3pt
31 お互いに問いかけあう機会がある	77.4%		6.75	3.72	78.0%	60.4%	85.7%	88.2%	71.0%	13.28	85.0%	10.00	6.4pt	-7.6pt
社会性に関わる学習環境	**75.9%**		**9.82**	**6.44**	**68.3%**	**66.0%**	**79.2%**	**83.3%**	**87.1%**	**26.52**	**91.3%**	**26.67**	**-11.2pt**	**-15.4pt**
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	83.6%		5.30	5.45	73.2%	71.7%	85.7%	94.1%	93.5%	28.16	95.0%	20.00	-10.0pt	-11.4pt
25 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	80.1%		11.66	6.34	80.5%	69.8%	83.3%	88.2%	90.3%	28.78	100.0%	41.67	-10.2pt	-19.9pt
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	73.3%		12.42	7.38	63.4%	64.2%	78.6%	78.4%	83.9%	10.79	85.0%	10.00	-10.6pt	-11.7pt
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	66.4%		9.92	6.61	56.1%	58.5%	69.0%	72.5%	80.6%	38.34	85.0%	35.00	-14.2pt	-18.6pt

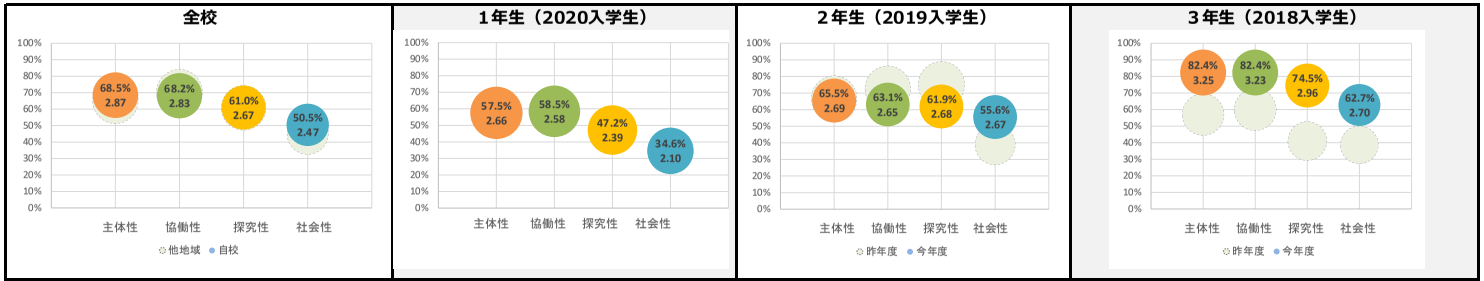
※大人の自己評価は、「20_大人用」シートでご確認いただけます。

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

10pt以上の増加　0～10ptの増加　減少

		全校				1年生（2020入学生）			2年生（2019入学生）			3年生（2018入学生）			
		全体		昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年～3年	回答上昇者
		割合(%)		差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	推移	割合(%)
	主体性に関わる自己認識	**66.4%**		6.93	-0.49	**57.3%**	-8.46	-	62.2%	-3.57	54.0%	79.4%	18.65		-
	【自己肯定感･自己有用感】	54.8%		-2.27	-5.90	41.5%	-20.40	-	53.6%	-8.33	47.6%	69.6%	16.61		-
49	自分にはよいところがあると思う	59.6%		-3.45	-11.36	45.3%	-21.38	-	57.1%	-9.52	53.7%	76.5%	16.47		-
50	私は、自分自身に満足している	50.0%		-1.09	-0.45	37.7%	-19.41	-	50.0%	-7.14	41.5%	62.7%	16.75		-
	【課題設定力】	71.9%		8.87	2.87	62.3%	0.36	-	69.0%	7.14	53.7%	84.3%	20.31		-
37	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	71.9%		8.87	2.87	62.3%	0.36	-	69.0%	7.14	53.7%	84.3%	20.31		-
	【行動力】	64.7%		19.62	1.52	56.6%	-8.87	-	60.7%	-4.76	52.4%	76.5%	22.43		-
38	目標を設定し、確実に行動することができる	67.1%		10.60	4.21	56.6%	-0.54	-	66.7%	9.52	56.1%	78.4%	22.43		-
51	自分で計画を立てて活動することができる	62.3%		28.63	-1.17	56.6%	-17.21	-	54.8%	-19.05	48.8%	74.5%	-		-
	【粘り強さ】	74.3%		1.49	-0.44	68.9%	-4.94	-	65.5%	-8.33	62.2%	87.3%	15.25		-
35	うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	77.4%		-0.86	-0.57	69.8%	-13.52	-	69.0%	-14.29	70.7%	92.2%	18.16		-
45	忍耐強く物事に取り組むことができる	71.2%		3.84	-0.31	67.9%	3.64	-	61.9%	-2.38	53.7%	82.4%	12.35		-
	協働性に関わる自己認識	**75.4%**		2.33	-2.05	**65.8%**	-12.77	-	76.5%	-2.08	71.0%	84.6%	8.79		-
	【受容力】	92.5%		1.16	1.99	84.9%	-7.95	-	92.9%	0.00	95.1%	100.0%	10.00		-
41	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	92.5%		1.16	1.99	84.9%	-7.95	-	92.9%	0.00	95.1%	100.0%	10.00		-
	【対話力】	84.9%		-4.20	-3.56	79.2%	-11.23	-	85.7%	-4.76	82.9%	90.2%	2.20		-
40	相手の意見を丁寧に聞くことができる	84.9%		-4.20	-3.56	79.2%	-11.23	-	85.7%	-4.76	82.9%	90.2%	2.20		-
	【表現力】	59.2%		14.68	-2.61	50.0%	-9.52	-	58.3%	-1.19	47.6%	69.6%	8.55		-
47	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	63.0%		-2.20	-3.86	49.1%	-17.61	-	69.0%	2.38	58.5%	72.5%	8.55		-
48	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	55.5%		31.57	-1.35	50.9%	-1.44	-	47.6%	-4.76	36.6%	66.7%	-		-
	【共創力】	65.1%		-2.32	-4.02	49.1%	-22.37	-	69.0%	-2.38	58.5%	78.4%	14.43		-
42	共同作業だと、自分の力が発揮できる	65.1%		-2.32	-4.02	49.1%	-22.37	-	69.0%	-2.38	58.5%	78.4%	14.43		-
	探究性に関わる自己認識	**63.1%**		3.30	-0.17	**55.9%**	-13.35	-	60.4%	-8.83	53.4%	72.9%	14.57		-
	【学びの意欲】	64.8%		10.85	-0.85	56.6%	-13.24	-	61.9%	-7.94	56.1%	75.8%	9.59		-
36	家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	61.0%		-7.52	-4.53	50.9%	-15.72	-	61.9%	-4.76	53.7%	70.6%	0.59		-
58	地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	57.5%		1.01	2.05	45.3%	-16.62	-	57.1%	-4.76	46.3%	70.6%	18.59		-
64	学習を通じて、自分がしたいことが増えている	76.0%		39.07	-0.05	73.6%	-7.37	-	66.7%	-14.29	68.3%	86.3%	-		-
	【情報活用能力】	70.5%		2.61	1.45	63.2%	-10.60	-	67.9%	-5.95	62.2%	80.4%	17.39		-
43	情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	77.4%		0.22	1.94	69.8%	-11.14	-	78.6%	-2.38	73.2%	84.3%	10.31		-
44	勉強したものを実際に応用してみる	63.7%		5.00	0.97	56.6%	-10.06	-	57.1%	-9.52	51.2%	76.5%	24.47		-
	【批判的思考力】	41.8%		-1.70	-3.32	35.8%	-16.53	-	35.7%	-16.67	29.3%	52.9%	16.94		-
39	複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	41.8%		-1.70	-3.32	35.8%	-16.53	-	35.7%	-16.67	29.3%	52.9%	16.94		-
	【省察力】	75.3%		1.43	2.03	67.9%	-13.03	-	76.2%	-4.76	65.9%	82.4%	14.35		-
46	自分を客観的に理解することができる	75.3%		1.43	2.03	67.9%	-13.03	-	76.2%	-4.76	65.9%	82.4%	14.35		-
	社会性に関わる自己認識	**60.2%**		10.41	-1.11	**54.4%**	-10.97	-	56.8%	-8.53	51.3%	69.0%	17.85		-
	【地域貢献意識】	57.8%		3.78	1.25	50.9%	-18.10	-	56.3%	-12.70	52.8%	66.0%	24.68		-
62	将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	42.5%		4.42	-1.39	37.7%	-9.88	-	33.3%	-14.29	26.8%	54.9%	24.90		-
53	地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	61.6%		-4.66	2.07	52.8%	-23.36	-	61.9%	-14.29	61.0%	70.6%	12.59		-
55	将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	69.2%		11.57	3.08	62.3%	-21.07	-	73.8%	-9.52	70.7%	72.5%	36.55		-
	【社会参画意識】	61.6%		13.82	-2.20	52.8%	-14.63	-	60.3%	-7.14	53.7%	71.9%	22.61		-
54	私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	45.2%		4.99	-1.62	32.1%	-15.54	-	47.6%	0.00	34.1%	56.9%	22.86		-
59	地域や社会での問題やできごとに関心がある	67.1%		34.51	-1.69	64.2%	-7.28	-	59.5%	-11.90	56.1%	76.5%	-		-
52	18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	72.6%		1.95	-3.29	62.3%	-21.07	-	73.8%	-9.52	70.7%	82.4%	22.35		-
	【グローカル意識】	60.0%		8.96	-1.25	57.2%	-2.29	-	52.4%	-7.14	46.3%	69.3%	25.28		-
56	地域の課題と世界での課題は関連していると思う	63.0%		-0.03	-5.01	62.3%	-4.40	-	57.1%	-9.52	53.7%	68.6%	8.63		-
61	将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	70.5%		28.16	1.59	69.8%	3.14	-	61.9%	-4.76	56.1%	78.4%	56.43		-
60	将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	46.6%		-1.25	-0.34	39.6%	-5.62	-	38.1%	-7.14	29.3%	60.8%	10.78		-
	【持続可能意識】	61.3%		15.11	-2.24	56.6%	-8.87	-	58.3%	-7.14	52.4%	68.6%	-1.18		-
57	地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	51.4%		-9.50	-4.28	49.1%	-12.85	-	45.2%	-16.67	41.5%	58.8%	-1.18		-
65	自分の将来について明るい希望を持っている	71.2%		39.71	-0.21	64.2%	-4.90	-	71.4%	2.38	63.4%	78.4%	-		-

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）



10pt以上の増加　0～10ptの増加　減少

	全校			1年生（2020入学生）			2年生（2019入学生）			3年生（2018入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年～3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	推移	割合(%)
主体性に関わる行動	**68.5%**	11.49	3.44	**57.5%**	-9.12	-	**65.5%**	-1.19	54.9%	**82.4%**	25.35		-
68 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	71.2%	-0.77	-3.66	64.2%	-9.66	-	64.3%	-9.52	56.1%	84.3%	12.31		-
71 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	65.8%	23.75	10.54	50.9%	-8.58	-	66.7%	7.14	53.7%	80.4%	38.39		-
協働性に関わる行動	**68.2%**	8.15	-1.97	**58.5%**	-14.13	-	**63.1%**	-9.52	56.1%	**82.4%**	22.35		-
69 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	68.5%	8.49	-0.68	52.8%	-18.60	-	71.4%	0.00	61.0%	82.4%	22.35		-
70 友人などから、意見やアドバイスを求められた	67.8%	7.81	-3.27	64.2%	-9.66	-	54.8%	-19.05	51.2%	82.4%	22.35		-
探究性に関わる行動	**61.0%**	19.96	0.17	**47.2%**	-27.83	-	**61.9%**	-13.10	58.5%	**74.5%**	33.51		-
72 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	63.7%	23.70	1.15	49.1%	-27.13	-	64.3%	-11.90	63.4%	78.4%	38.43		-
73 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	58.2%	16.22	-0.82	45.3%	-28.53	-	59.5%	-14.29	53.7%	70.6%	28.59		-
社会性に関わる行動	**50.5%**	11.79	5.37	**34.6%**	-4.30	-	**55.6%**	16.67	34.1%	**62.7%**	24.08		-
66 いま住んでいる地域の行事に参加した	43.2%	1.15	6.84	24.5%	-4.04	-	47.6%	19.05	22.0%	58.8%	16.82		-
67 地域社会などでボランティア活動に参加した	41.1%	23.10	6.45	18.9%	-7.32	-	54.8%	28.57	22.0%	52.9%	34.94		-
74 先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	67.1%	11.12	2.81	60.4%	-1.53	-	64.3%	2.38	58.5%	76.5%	20.47		-

⑤ 総合的な生徒の満足度

	全校			1年生（2020入学生）			2年生（2019入学生）			3年生（2018入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年～3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	推移	割合(%)
75 今の生活全般に対する満足度	56.2%	37.69	-7.00	39.6%	-0.85	-	57.1%	16.67	39.0%	72.5%	-		-
63 この学校に入ってよかったと思う	84.9%	43.63	0.70	81.1%	-9.34	-	83.3%	-7.14	82.9%	90.2%	-		-

2020_新設問（パイロット実施）

	全校			1年生（2020入学生）			2年生（2019入学生）			3年生（2018入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年～3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	推移	割合(%)
76 国際社会の課題解決に貢献したい	38.4%	-	-13.85	30.2%	-	-	33.3%	-	-	51.0%	-		-
77 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	41.1%	-	-13.30	32.1%	-	-	33.3%	-	-	56.9%	-		-
78 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	34.9%	-	-8.51	22.6%	-	-	35.7%	-	-	47.1%	-		-